

Bulletin

交通 ● ブリテン

ISSN 1349-9610

2021年
年報号

55

DEPARTMENT OF TRANSPORTATION SYSTEMS ENGINEERING • COLLEGE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY • NIHON UNIVERSITY



巻頭言：小早川 悟

New Normal で
New Stage へ

Contents

- 2 巻頭言：小早川 悟
- 3 令和3年度 研究室紹介
- 7 TOPICS 新任教員の紹介
- 8 TOPICS 交通システム工学科配置図
- 9 令和2年度 修士論文・卒業研究
- 13 令和2年度 教員の研究・活動
(2020.4.1～2021.3.31)
- 28 令和2年度 学生の受賞等
(2020.4.1～2021.3.31)
- 29 教室の動き
- 31 令和2年度 就職状況
- 32 COLUMN
- 32 編集後記

表紙写真は、交通システム工学科写真コンテストの過去の応募作品です。



巻頭言 New NormalでNew Stageへ

教授 小早川 悟

2020（令和2）年10月より峯岸邦夫先生からのバトンを受けて教室主任に就任致しました。2020年は、日本だけでなく世界中で感染が拡大した新型コロナウイルス（COVID-19）の影響を受けて、さまざまな制約下での活動を強いられた年でした。令和元年度の卒業式ならびに令和2年度の入学式は中止され、結局令和2年度の前期は、新入生ならびに学部生はほとんど大学構内に入構することはできませんでした。辛うじて大学院生と卒研生が入構できるようになったころには、すでに夏休みに入る直前になっていました。後期になって、やっと学部生のガイダンスが対面で行えるようになりましたが、その後は各学年の実験および演習科目の1科目ずつしか入構できない状況が続きました。

このような状況下で、当時の主任であった峯岸教授のもと、交通システム工学科の教職員は定期的にオンラインによる会議を開催して、授業の進め方や学生へのサポート方法などの情報交換を頻繁に行っていました。ステイホーム期間中におけるオンライン講義の実施、さらには卒業研究ならびに大学院生の修士論文の指導などにおいては、教員も学生も今まで経験したことのない状況下で、可能な限りのコミュニケーションを取って対応してきました。しかしながら、どうしてもオンラインだけでは対応が不十分な場合も出てきます。新型コロナウイルスが完全に収束するまでは、オンラインと対面の講義のバランスや大学キャンパスへの入構制限は、しばらくの間は大きな課題となっていくでしょう。このような状況下においても交通システム工学科としては、引き続き教職員が一丸となることができる限りの対応を行っていくつもりです。

上記のような大学での講義や研究での変化に加えて、コロナ禍の中で話題になっているのが交通行動の変化です。交通システム工学科の教員は、研究活動や社会貢献活動の中で、コロナ禍による交通行動の変化の影響を考えざるを得なくなっています。ひとつは、公共共通機関の利用者の減少です。大学でもオンライン授業が実施されていますが、各企業でも在宅勤務やオンラインでのリモート会議など、移動をできるだけしないようにして業務を進めていこうとする動きがあります。それ自体は悪いことではないと思いますが、もともと公共交通システムの利用者が少ない路線や地域では、利用者減少による減収の影響で公共交通システムの採算性が低下していることが懸念されています。さらに、観光交通にも大きな影響が出ています。「Go To トラベル」キャンペーンなどで政府による観光地の支援が行われてきましたが、新型コロナウイルスの第2波や第3波といわれる感染拡大に伴い縮小せざるを得ない状況になっている

ことに加えて、海外からの観光客も大幅に減少しており、これまで日本政府が進めてきた観光政策も停滞せざるを得ない状況になっています。

物流に関連するところでは、B to C（企業と個人間）やC to C（個人間）の物流が増加しているとの報告があります。コロナ禍でのステイホームにより、通信販売（いわゆるEコマース）が促進され、各個人宅に届けられる戸配の物流が増加することで、物流の多頻度小口化（少ない量を頻度高く運ぶこと）が加速しています。このような状況下で、ヒトの移動とモノの移動のどちらもこれまでと異なった交通実態が発生しており、今後の予測が難しい状況にあります。

一方で、コロナ禍でのさまざまな取り組みは、新しい可能性も生み出しています。オンデマンド型の講義を聴講している学生からは、自分のタイミングで講義を停止して聞くことができたり、理解が不十分な箇所を何度も聞くことができたりするため、これまでのような対面式の講義よりも理解が深まったという学生もいるようです。私自身も、オンデマンド型の講義を作成するために、これまで実施してきた講義のパワーポイントのスライドをすべて見直して、オンライン用に編集することになりました。コロナ禍でのオンデマンド型の講義がなければ、ここまですべて講義内容を見直すということはしていなかったと思いますので、ある意味でよい機会だったともいえます。さらに、研究テーマでもコロナ禍に対応した研究テーマの設定が必要となりました。これまでのような大人数での実態調査などが困難な状況で、どのようにデータを集めてくるかといったような工夫も必要となりました。さらに、今回のステイホーム期間は、交通需要をどこまで減少させることができるかといった交通需要マネジメントの壮大な社会実験と見ることもできますし、3密を避けるための対策についても交通需要マネジメントの需要の分散と平準化と同じような考え方です。今後は、コロナ禍における交通行動を分析した研究論文の発表も増えてくるのではないかと予想しています。

今回のような危機的状況は、世界を混乱に陥れている一方で、時代の大きな変わり目になると指摘している方々が多数います。「ニューノーマル」といった言葉も生まれていますが、この先も私たちは社会生活を営んでいく必要があります。「アフターコロナ」や「ポストコロナ」といわれる時代に、日本の交通システムはどうあるべきなのかを問われているように感じています。今回のコロナ禍の経験から何を学び、それを今後どのように生かしていくのかを考えていく必要があるでしょう。

令和3年度 研究室紹介

744号室

運輸交通計画 研究室

轟 朝幸 教授
兵頭 知 助教



当研究室では、「活力ある国土・地域づくりのために交通をマネージ」することを目標として研究を進めています。

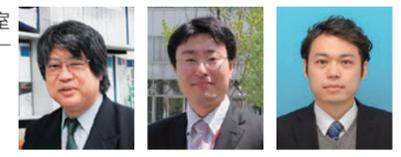
キーワードは「交通まちづくり」「インターモーダルリズム」。交通まちづくりとは、地域の交通施設や交通サービスを改善して、生活や産業活動をサポートし、地域を元気にしようとする概念です。'まち'は空間的広がりを意味し、国土や地方、都市、街などを包含しています。インターモーダルリズムとは、道路や鉄道、バス、空港・航空、港湾・船舶などの陸海空のあらゆる交通手段を有機的につなぎ、時空間的にシームレスな移動を可能にしようとする概念です。インターモーダルリズムの確立を目指し、交通まちづくりを実践するための理念、



秋田県で導入を進めている自動運転車両 リモートによる研究室懇親会

交通システム 研究室

福田 敦 教授
石坂哲宏 准教授
菊池浩紀 助手



交通システム研究室では、さまざまな交通問題に対してシステム工学的アプローチから取り組むことを基本としています。問題に応じて数理計画的手法に基づくモデルやシステムの開発を行い、これらを交通問題が深刻な開発途上国の交通状況の解析や交通政策・交通プロジェクトの評価に適用し、実際に問題解決に貢献することを目標としています。例えば、BRT、地下鉄、新幹線などの軌道系交通機関の導入、公共交通軸を中心としたコンパクトな都市形態の実現、都市災害に対する適応策の導入などがCO₂排出量の削減や経済効果の増加にどの程度寄与するか検証しています。また、車両に搭載されているプローブ情報システムやカーナビなどから移動体情報を取得することで交通状態を推計する手法の開発を行っています。これらのデータに基づいてマイクロ交通流シミュレーションモデルの開発しており、例えば、交通情報を提供することでマルチモーダルを推進する方法など、さまざまな施策の評価に適用しています。



バンコク都市内におけるウォーカービリティ調査の様子

これらのモデルやシステムの開発は、各国の大

政策、理論、技法などについてフィールド調査や交通分析などを実施しながら研究を進めます。加えて、道路上に起こりうるさまざまな交通問題（i.e.事故や渋滞）についての研究も併せて行っています。

- 卒業研究テーマ
 - ・公共交通（航空、鉄道、バスなど）の交通行動分析
 - ・マーケティング施策による公共交通活性化分析
 - ・災害に強い空港づくりのための実態分析
 - ・地方ローカル線（いすみ鉄道等）を活かした地域交通計画
 - ・プライベートジェットの利用実態分析
 - ・事故リスクの要因分析に関する研究
 - ・COVID-19の公共交通への影響分析
 - ・COVID-19の自動車交通への影響分析
 - ・自動運転車両の公共交通への導入検討
 - ・夜間光データを用いた貨物量の推計に関する研究
- ゼミナール・テーマ
 - ・地方創生政策アイデアコンテストに応募
 - ・交通計画分野に関する文献レビュー（英論文含む）
 - ・就活に向けた実力アップ（SPI、TOEICなど試験対策）
- 卒業研究、ゼミナール着手条件

原則として「交通需要予測」「空港・港湾工学」「交通事業論」「地域計画」を履修すること。TOP資格を取得。これまでの卒論・修論の概要やゼミ旅行などのイベント、学会発表参加などの研究室活動実績はホームページを参照してください。（pubtrplan.trpt.cst.nihon-u.ac.jp）

739号室

学あるいは政府関係機関など共同研究という形で進めています。近年では、タイのカセサート大学、スラナリー工科大学、インド工科大学ハイデラバード校、フィリピンのデ・ラサール大学、ザビエル大学、オーストリアのウィーン工科大学などと共同で研究を進めています。また、卒研生や大学院生が現地の学生と協力して、オンラインでの研究ミーティングの実施や調査なども行っています。

- 卒業研究テーマ（一部）
 - ・アジアの都市における二輪車ドライバーの安全意識と運転行動の分析
 - ・都市鉄道駅周辺におけるウォーカービリティの評価
 - ・洪水発生時の交通行動の分析
 - ・鉄道端末交通としての自動運転バスに関する利用意向の把握
 - ・交通ビッグデータおよびプローブデータによる交通状態推定
 - ・深層学習を用いた短期間将来交通状態の予測

●ゼミナール・テーマ
小グループごとに対象都市を選び、そこでの具体的な交通問題を取り上げて、それを解決するための計画案を作る。計画案作りの過程や現地調査を通じて、現況調査の方法や各種の数理計画的手法・モデルを活用した計画案の分析方法を学習する。諸外国の学生とオンラインで共同ワークショップを開催し、交通問題の解決に向けた議論をする。報告書を作成し、講評会を行う。

●卒業研究、ゼミナール着手条件
交通問題の解決にかかわる職業に就くことを希望している者。交通需要予測、国際コミュニケーション論、国際開発援助論、多変量解析、情報通信システムの受講を推奨する。

交通環境 研究室

藤井敬宏 教授
伊東英幸 准教授



交通環境研究室では、公共交通や福祉交通、観光交通などの利便性向上に向けた改善策の検討や、環境に配慮した交通インフラ整備の計画や評価、ならびに交通環境の改善に向けた対策などの研究を進めています。

例えば、公共・福祉・観光交通の視点では、コンパクトシティにおける交通ネットワークの整備検討、住民協働型の公共交通整備方策の検討、中山間地域における自動運転や住民互助による移動交通手段の検討、心のバリアフリーに関する検討を行っています。またエゾシカやヤンバルクイナなどの野生生物と自動車の事故発生要因の分析と対策の検討、リニア中央新幹線の環境アセスメントの評価などに取り組んでいます。

令和2年度のゼミナールは、大学院生4名、卒研17名、3年ゼミ生19名の総勢40名が在籍し、Zoomを用いたオンデマンドとリアルタイムによるゼミナールや卒業研究中間発表会を年2回実施しました。

●卒業研究テーマ（一部）

- ・高齢者および子育て世帯を対象としたデマンド型交通の利用実態分析
- ・移動観測法を活用した時空間暴露量による歩行空間評価の検証

- ・スクールバスを活用した高校生の移動支援策の検討
- ・車いす利用者の地下鉄駅から生活関連施設までのルート選択の評価
- ・中山間地域における住民主体による送迎システムおよび自動運転車の利用意向分析
- ・北海道におけるエゾシカと車両の事故発生による社会的外部費用の推計
- ・自動車のヘッドライト点灯によるヤンバルクイナの飛び出し状況の分析
- ・山梨県におけるリニア中央新幹線の環境影響評価に対する住民の意識分析

●ゼミナール・テーマ（令和2年度実施内容）

- ① 課題発表
 - ・諸外国あるいはわが国の交通に関連する環境問題の事例紹介と改善に向けた提案
- ② 社会貢献型学習（自治体との協働によるグループディスカッション）
 - ・市原市市民大学講座（シニアのための交通支援）に参加（千葉県市原市）
 - ・横芝光町の公共交通網の改善に向けた提案（千葉県横芝光町）
 - ・伊東駅周辺整備計画の提案（静岡県伊東市）
- ③ 就職&進路指導
 - ・インターンシップに向けた就職&進路セミナー

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通環境問題に関心を持ち、ワークショップやフィールド調査に積極的に参加する意欲があること。

空間情報 研究室

佐田達典 教授
江守 央 准教授



空間情報研究室では、衛星測位システム（GNSS）、レーザー計測技術をベースに、先端的なセンサを利用して位置や形状を計測・解析・可視化する研究を行い、三次元地図整備、交通施設整備、移動時の情報提供への応用を目指しています。

GNSSは米国のGPS、わが国の準天頂衛星QZSSをはじめ世界各国のシステムを用いた高精度測位実験による評価を行っています。車両にGNSSとレーザー計測装置を搭載して道路空間の形状を走行しながら計測するモバイルマッピングシステム（MMS）を用いて自動走行のための三次元道路情報や歩行の移動円滑化に向けた歩道のバリア情報の抽出や情報提供などの応用技術を研究しています。バーチャルリアリティ（VR）技術によるバリアチェックにも取り組んでいます。

令和2年度は、大学院生9名、卒研17名、ゼミナール生19名の総勢45名が在籍し活動しました。

●卒業研究テーマ（令和2年度）

- ① QZSSのセンチメートル級測位補強サービスの精度検証
- ② BeiDouの3種の衛星軌道を組み合わせた測位の精度検証
- ③ 移動体衛星測位における停止時の精度劣化要因分析
- ④ トンネル点検を想定したMMSによる壁面変状計測
- ⑤ 三次元点群データとGISを用いた歩道のバリア可視化
- ⑥ 三次元点群データを用いたVR空間での認識性評価

- ⑦ ARサインを投影したスマートグラス着用時の挙動検証
- ⑧ 写真解析 SfM による模型の三次元点群モデル作成
- ⑨ UAVとBluetooth電波を用いた災害時被災者捜索手法
- ⑩ オンライン会議システムを用いたワークショップ評価

●ゼミナール・テーマ

GNSS、レーザー測定の仕組みについて専門書の輪講・計測体験を行います。また、交通調査や交通バリアフリーに関する見学体験会ならびに論文の講義を行い、専門的知識を高めます。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特にありません。新技術や社会貢献に興味のある方を歓迎します。

卒研、ゼミ受入可能コース：両教員ともに両コース受入可能

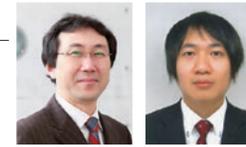


MMSの構成

MMSによる計測実験

交通計画 研究室

小早川 悟 教授
田部井優也 助手



交通計画研究室では、「地区交通計画」と「都市交通管理」を柱として研究を行っています。具体的には、自動車のトリップエンドとしての駐車をどのようにコントロールしていくか、都市における物流や貨物車の問題をどのように解決していくか、自転車や二輪車の利用や走行に関する研究、交通安全対策に関する研究、災害発生を考慮した都市交通計画の検討などを進めています。さらに、ゼミ合宿、卒業研究中間発表会、研究室懇親会では、研究室の卒業生の先輩方にも参加していただき、研究内容や就職活動に関するさまざまな意見交換を行っています。

●卒業研究テーマ

- ① 駐車施設の運用に関する研究

これまでのような普通乗用車用の駐車スペースの供給量を増やすことを主眼においた駐車政策から、既存の駐車スペースを有効活用するための駐車場の隔地・集約化に関する研究や、貨物自動車や自動二輪車用の駐車スペースを確保するための研究に取り組んでいます。
- ② 物流システムに関する研究

物流効率化のための施策として建物内共同配送に関する研究や、貨物車対策のためにビッグデータを活用し貨物車の動きを把握する研究を行っています。

- ③ 交通安全に関する研究

道路形状からみた交通事故対策の考え方や生活道路における道路ハンプ導入の効果に関する研究を行っています。
- ④ 自転車交通に関する研究

自転車通行空間整備のための自転車通行実態調査を実施することで、どのような形態の道路空間整備が自転車や歩行者さらには自動車にとって望ましいかを道路種別や交差点形態別に分析を行っています。
- ⑤ 災害時を考慮した都市交通計画に関する研究

災害時における支援物資輸送のための道路交通計画に関する研究や東日本大震災時の交通信号機の被害状況を調査し早期復旧のための資機材のストック方法の検討を行っています。

●ゼミナール・テーマ

- ・『交通技術必携』の輪読および発表
- ・「これからの交通工学」や「研究活動の進め方」等の講義
- ・交通対策の現場見学会
- ・交通行動データ解析の基礎演習
- ・セミナー、シンポジウム、講習会等の参加

●卒業研究、ゼミナール着手条件

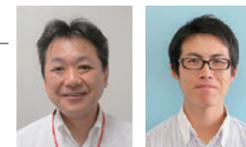
ロジスティクス概論・交通現象解析Ⅱを受講すること。



駐車場利用実態調査の様子

道路マネジメント 研究室

下川澄雄 教授
吉岡慶祐 助教



人口減少、少子高齢化社会が直面するなかで、今後ともくらし豊かな生活、効率的な都市機能を維持していくためには、中山間地域から大都市に至るまで、「コンパクト」+「ネットワーク」により、新たな活力の集積を図り、それらが重層的に重なる国土の形成を図る必要があります。

道路マネジメント研究室は、これらを実現すべく、道路を中心とする交通インフラの計画・設計から維持管理に至るプロセスの中で、今日的な課題や社会的な要請を抽出・整理し、新たな制度設計を提案していくことを研究の柱としています。そのため、研究の対象は、①道路ネットワークのあり方、②道路のサービス水準と道路の新たな計画設計論、③車両性能や交通特性と道路の構造との関わりなど、道路の機能・特性に関わる基礎的な研究から施策立案に関する実務的な応用研究といった広い領域を含むものです。

なお、本研究室では、他大学との合同ゼミ合宿をはじめとして外部との交流も盛んに行っています。

●卒業研究テーマ

- ・道路の機能・階層を踏まえたサービス水準のあり方に関する研究
- ・将来の拠点配置や交通特性を踏まえた道路ネットワークや道路空間の再編に関する研究

- ・高速道路渋滞時の交通挙動と交通運用策に関する研究
- ・信号交差点での交通挙動と交通状態量に関する研究
- ・ラウンドアバウトの交通特性と道路構造に関する研究
- ・性能照査型の道路計画設計論など

●ゼミナール・テーマ

小グループごとによるフィールドスタディを通じ、道路交通問題とその解決策を実践的に習得することを狙いとしています。また、グループディスカッションを通じ、思考力や論理的説明能力の向上を目指します。令和2年度は、遠州鉄道(株)のバスプローブデータを用いた時間信頼性について分析を行うとともに、渋滞のボトルネックを特定し、渋滞の発生要因や対策案を議論しました。さらに、その成果をレポートとしてまとめました。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

道路工学および同演習、交通現象解析Ⅱを履修または履修予定であること。



他大学との合同ゼミ合宿



空撮調査による走行挙動分析

交通基盤G
構造工学 研究室鈴木 圭 教授
齊藤準平 准教授

交通基盤G（構造工学研究室）では、公共交通を支えるために重要となる交通基盤を研究対象として、構造工学や材料工学ならびに維持管理工学などの視点から研究を行っています。交通基盤の新たな建設、膨大な数の交通基盤の機能維持など、交通基盤を取り巻く諸問題は多く、その解決を目指したテーマを設定し研究に取り組んでいます。

研究室の活動について、3年生（ゼミナール）は、前期はコンクリートカヌー大会に出場するためにコンクリート製のカヌーの作製、後期は自由研究にのぞみます（面白い実験が多いのが特徴です）。4年生（卒研生）は、卒業研究にのぞみます。その他にも、研究室全体で、懇親を深めるためのイベントを開催します。

●卒業研究テーマ

- ◎交通荷重下における交通施設構造物の構造性能と耐久性評価（キーワード：繰り返し輪荷重、プレストレストコンクリート（PC）構造、塩害）
- ◎新材料により補修・補強された交通施設構造物の構造特性と耐久性評価（キーワード：繰り返し輪荷重、繊維補強コンクリート、塩害、火害）
- ◎各種非破壊試験による交通施設構造物の性能評価（キーワード：超音波伝播速度試験、三次元X線CT試験（画像解析））

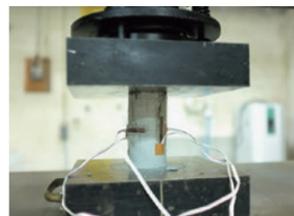
◎地域ごとの交通施設構造物の劣化損傷リスクマップの算定（キーワード：Google MAP、高速道路、塩害地帯、寒冷地帯、台風、降雨）

●ゼミナール・テーマ

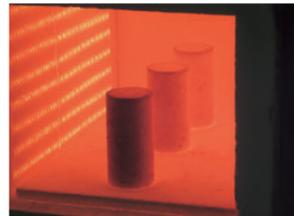
- ◎コンクリートを楽しく学ぶ「コンクリート夜話」、「セメントコンクリートQ&A」
- ◎コンクリート・モルタルを用いたカヌーの作製「コンクリートカヌー大会に出場！」
- ◎コンクリート・構造・環境などにかかわる自由研究（基礎・応用実験調査etc.）「何かやってみよう！」
- ◎その他、課外活動（建設現場見学、交通基盤等の土木構造物の見学）

●卒業研究、ゼミナール着手条件

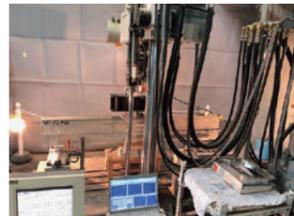
卒業研究は、コンクリートに関する材料・構造に関する科目（建設材料Ⅰ、コンクリート構造Ⅰ・Ⅱ、建設材料実験、橋梁工学）を必ず履修してください（卒研と同時に履修可）。



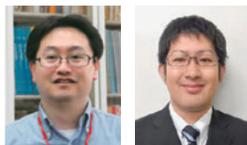
材料の圧縮強度試験



材料の高温加熱試験



繊維混入コンクリートはりの載荷試験

交通基盤G
地盤工学 研究室峯岸邦夫 教授
山中光一 助教

研究室構成は、大学院博士前期課程2年生が2名、前期課程1年生が1名、卒研生（4年生）が15名、ゼミナール生（3年生）が14名の合計32名で、教員は峯岸教授、山中助教の2名体制で研究・教育を進めました。

当研究室では、交通施設（鉄道、道路、空港、港湾などに関連する施設）の設計・建設に関わる地盤の力学的問題や新材料・新技術の開発、地盤構造物の維持管理に関わる諸問題について研究を行っています。

卒業研究では、継続研究の舗装用に強化されたジオテキスタイル（土木用不織布）の耐久性および通水性能、ジオシンセティックスを立体的に組み立てて地盤内に敷設するジオセルの力学特性の把握ほかに、補強盛土工法の維持管理に関する研究等を行いました。これらの成果は、（公社）



小型FWDを用いた現場試験 室内CBR試験

地盤工学会関東支部発表会や（公社）土木学会関東支部技術研究発表会において発表を行っています。

学生の動きとしては、例年、地盤工学会関東支部主催のソイルストラクチャーコンテスト（与えられた地盤材料を用いて構造物を作製し、強度等を競うコンテスト）に学部生が参加し、日頃の研究や勉強成果を活かしています。

また、昨年度は開催が中止となりましたが、地盤工学を研究する学生や研究者が集まり懇親を深める三上杯バレーボール大会と関東大学地盤研究室対抗ソフトボール大会に研究室全員で参加し、他大学の学生や他研究機関の研究者達との情報交換、懇親を深めています。

●卒業研究テーマ

- ① 舗装用強化ジオシンセティックスの耐久性および排水性評価
- ② 軽量化地盤材料による埋設物への土圧低減特性
- ③ 乱された関東ロームの力学特性
- ④ 路床・路盤の弾性係数に関する研究
- ⑤ 土系舗装の性能指標に関する研究

●ゼミナール・テーマ

- ① 交通地盤工学（交通施設の地盤工学）とは？
- ② 大地震・集中豪雨等による地盤災害とその対策技術
- ③ 地盤構造物への新素材・新材料の利用技術
- ④ 路床・路盤の性能評価に関する研究
- ⑤ フィールド・トリップ（地盤の観察、現場見学など）

●卒業研究、ゼミナール着手条件

卒業研究は地盤力学Ⅰ、Ⅱと地盤材料実験を履修（同時履修可）。

交通基盤G
鉄道基盤工学 研究室

谷口 望 教授



交通基盤G（鉄道基盤工学研究室）では、土木構造物の設計、施工、維持管理、環境対策など、総合的な構造工学に関する研究を幅広く行います。主な研究としては、鋼とコンクリートを使用した複合構造物に関するものを多く扱っており、鉄道構造物だけでなく、鉄道技術を応用して道路構造物に対し



JR東日本東京工務事務所「東京駅改良工事見学会」での集合写真



企業および学協会と連携して実施した腐食鋼桁の3Dスキャナ測定の様子

TOPICS 新任教員の紹介



谷口 望 教授

この度、日本大学理工学部交通システム工学科の教授に着任させていただくことになりました。谷口望です。私は早稲田大学理工学部土木工学科を卒業後、同大学助手、鉄道総合技術研究所や東日本旅客鉄道、京都大学大学院工学研究科の特定助教などを経て、4月より本学科にてお世話になることとなりました。

これまでは鉄道構造物、特に鉄道用鋼・合成構造物の設計や維持管理の業務を中心に担当してきており、研究活動としても鉄道構造物の課題に多く取り組んできました。鉄道構造物の設計に関しては、鉄道の設計基準である「鉄道構造物等設計標準・同解説」の改定作業に関わり、性能照査型設計や新しい構造形式に対応した設計基準について検討業務を行ってきました。また、維持管理に関する課題の例としては、既設鋼構造物の延命化対策として、ポリマーセメントモルタルを活用したりリニューアル工

法や維持管理合理化手法を提案し、東日本旅客鉄道や相模鉄道にて実用化しました。さらに、近年は土木構造物の環境対策も注目されており、これを受けて鉄道橋梁の騒音振動対策にも取り組んでいます。ここ数年は、これらの鉄道構造物で検討したノウハウを応用して、道路橋の設計、維持管理、環境対策に関する課題にも取り組んでいます。

当方のこれまでの仕事のなかで、非常に貴重な経験をしたもののひとつとして、東日本旅客鉄道（鉄道総合技術研究所からの出向）での勤務があります。このときの業務では、東京工務事務所において工事管理



写真1：高松琴平電鉄の橋梁で実施しているポリマーセメントモルタルの海岸線露露試験の様子

室で設計審査を行うとともに、神奈川工事で横浜駅の建設業務を担当しました。神奈川工区では定期的に夜間作業に参加し、アカデミックな研究成果を鉄道工務に生かすための方策を、身をもって経験することができました。この経験から、より実践的な研究を目指し、テーマ設定や研究成果報告を行うよう心がけています。

最近では50歳目前となり体力の衰えを痛感することもあります。まだまだ研究者としてはこれからと思っておりますので、これまでの経験を生かし、研究教育を通じて社会に貢献できるよう努力してまいります。どうぞよろしく願いたします。



写真2：上毛電気鉄道の橋梁で実施した制振材を用いた騒音振動対策試験の様子

4F	交通工学・ 計画演習室 1	交通基盤 G (鉄道基盤工学研究室) 谷口 教授	運輸交通計画 研究室 轟 教授 兵頭 助教	交通工学・ 計画演習室 2	
	745B室	745A室	744室 内線5219	743B室	
	3F	交通システム 研究室 福田 教授 石坂 准教授 菊池 助手	交通環境 研究室 藤井 教授 伊東 准教授	交通環境 演習室	交通システム 演習室
		739室 内線5355	738室 内線6476	737室	735室
2F	交通システム 工学科事務室 伊藤・熊田・高梨	交通輪講室	空間情報 研究室 佐田 教授 江守 准教授	交通計画 研究室 小早川 教授 田部井 助手	交通現象 解析室
	7214室 内線5239	7213室	7212室 内線8147	7211室 内線5242	7210室
1F	道路マネジメント 研究室 下川 教授 吉岡 助教	交通基盤 G (構造工学研究室) 鈴木 教授 齊藤 准教授	交通施設・ 社会環境演習室	交通基盤系 演習室	交通基盤 G (地盤工学研究室) 峯岸 教授 山中 助教
	7111室 内線5503	7110室 内線5241	719室	718室	717室 内線5217

- 2号館：舗装・地盤系実験室 (201、202) 内線5418
- 7号館：コンクリート・構造系実験室 (704) 内線5236
- 測量実習センター 内線5322
- 社会基盤工学系実験 建設材料系 内線5216
- 地盤・舗装材料系 内線5584
- 駿河台校舎タワースコラ 6階：交通システム工学科共通研究室 (S611室)
..... 03-3259-0976

ダイヤルイン 047-469-(内線番号) 事務室 FAX : 047-469-2581

令和2年度 博士論文・修士論文・卒業研究

博士論文

Study on Evaluation of Traffic Management Measures Using Macroscopic Fundamental Diagram under Flooding Situation (Macroscopic Fundamental Diagramを用いた洪水発生時の交通管理の在り方の評価に関する研究)

主査：福田 敦教授 SUWANNO PIYAPONG

公共サービス水準維持の観点からみた集約型都市の実現可能性に関する研究—都市集約プロセスを考慮して—

主査：福田 敦教授 菊池浩紀

東京臨海部における水上交通の魅力向上に資する事業方策と空間要件に関する研究

主査：轟 朝幸教授 田島洋輔

修士論文

信号交差点の飽和交通流率と運転者属性の関係性に関する研究

指導：下川澄雄教授 浅見公一

交通・建設分野の高精度衛星測位におけるGPS/QZSS/Galileoを利用した可用性向上方策に関する研究

指導：佐田達典教授 宇野敬太

非幹線道路ブロックエリアにおける交通特性に着目した交通事故リスク要因分析

指導：轟 朝幸教授 岡田航平

アイランドホッピングを考慮した水上飛行機の運航形態に関する研究—沖縄県八重山諸島を事例として—

指導：轟 朝幸教授 小俣龍太

ロードプライシングの適用によるBRTへの利用者転換と財源確保に関する研究—フィリピン・メトロセブを対象として—

指導：福田 敦教授 釘井里紗子

車いす使用者の移動負担を考慮したルート選択の検討—地下鉄駅から生活関連施設のルートを対象として—

指導：藤井敬宏教授 齋藤 望

駐車場の集約化が目的地までの徒歩距離と駐車場へのアクセス経路に与える影響の分析

指導：小早川 悟教授 櫻井和輝

事故多発路線におけるエゾシカと車両の事故発生要因分析に向けたモデルの比較検討

指導：伊東英幸 准教授 鈴木絢人

都心部への流入抑制機能を果たす環状道路のサービス速度に関する研究—特に地方都市を対象として—

指導：下川澄雄教授 鈴木龍一

模型盛土内地下水位に及ぼす排水材敷設間隔の影響

指導：峯岸邦夫 教授 関根 碧

Space Syntax理論を用いた生活関連経路決定方法の提案

指導：江守 央 准教授 瀬戸山竜二

ポストコロナにおける地方鉄道での感染症対策に対する利用者意識の構造分析

指導：轟 朝幸教授 西脇雅人

ジオグリッド補強土壁の性能に及ぼす盛土状態の影響に関する研究

指導：峯岸邦夫 教授 橋本 凌

ユニバーサルデザインタクシーを活用した介護タクシーの運用改善策の検討—千葉県を例として—

指導：藤井敬宏 教授 福田捷樹

トンネル覆工コンクリートにおけるうきの検出に向けた位相差方式レーザスキャナ搭載型MMSによる層厚検出精度に関する研究

指導：佐田達典 教授 藤村大輔

中山間地域における自動運転車の需要予測—福島県三島町南部を対象として—

指導：伊東英幸 准教授 星野遼太

交差点の信号遅れを考慮した立体交差点が成立可能となる交通条件の分析

指導：下川澄雄 教授 真岩優多

卒業研究

【 】は共同論文指導

■ 運輸交通計画研究室 (轟 朝幸 教授・兵藤 知 助教)

Link & Place 概念に着目した歩行者事故特性に関する分析
相川修平

駅周辺部における路線価と歩行者事故との関係分析
青木麻菜

幹線道路における沿道施設密度に着目した事故リスク原単位に関する分析
石塚 剛

COVID-19による交通量変動に関する影響分析
阿久津理来

COVID-19による自動車利用実態に関する調査分析
松田航輝

一般国道における交通特性と深刻度別事故リスクとの関連分析
吉田隼也

地域鉄道における感染症対策に対する利用者意識の分析
—いすみ鉄道を対象として—
土屋貴寛

地域鉄道における貨客混載事業の効果に関する研究
—いすみ鉄道を対象として—
三木田龍一

地域鉄道事業者における風水害対応型BCP策定の検討
吉岡瑞貴

いすみ鉄道における混空情報提供に向けた指標に関する研究
鈴木夏輝

いすみ鉄道近隣在住者のコロナ禍 (COVID-19) における交通手段選択行動の変化に関する研究
原田大輝

ビジネス航空の拡充にむけた首都圏空港のあり方に関する研究—国際比較を通じて—
秋山 晶

2019年台風15号における成田空港周辺の道路交通の実態分析—タクシー運転日報を用いて—
熊谷幸真

夜間光データを活用した発生集中貨物量の推計
新保壘哉

地方部における自動運転サービス導入プロセスの評価法の提案
中西勇稀

■ 交通システム研究室 (福田 敦 教授・石坂哲宏 准教授)

インド・アーメダバードにおける観測交通量を用いた下流側交通量の推定
市田和輝

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策が交通行動の変容に与えた影響の国際比較—アジアとヨーロッパの7か国並びに日本の都道府県間移動を対象として—
牛嶋祥寛

イメージ動画の視聴による自動運転バスへの認識変化に関する研究
小椋大雅

公共施設の集約による住民の利便性の変化の分析に関する研究
北方 暁

アジア都市におけるオートバイ運転者の安全意識と運転行動の比較
小泉 陸

スマートフォンアプリでの二酸化炭素排出量の提示による交通手段選択行動の変化に関する分析
佐藤力哉

定額制の自動運転バスに関する利用意向の分析
須藤寛太

インド・アーメダバードにおけるオートリキシャが飽和交通流率に与える影響の分析
田中康介

バンコクの都市鉄道駅周辺における歩行環境の改善の評価
久富捺暉

バンコク都市鉄道駅周辺における土地利用状況の分析
宮 昂輝

ナコンラチャシマにおけるヒヤリハットデータに基づく道路交通事故対策の検討
宮津駿一郎

タイ・ウボンラチャタニにおける洪水時の交通行動の分析
宮村幸我

ミクロ交通シミュレーションによる二輪車・オートリキシャを含む交差点での信号制御方式の検討
森 健太郎

シェア型自動運転システムによる送迎交通の利用意向に関する研究
柳田晃汰

道路利用者の工事渋滞に対する意識構造分析
綿引 佑

■ 交通環境研究室 (藤井敬宏 教授・伊東英幸 准教授) …

心のバリアフリーハンドブックの作成と評価—千葉県市原市を対象として—
飯田 樹

車いす利用者の地下鉄駅から生活関連施設までのルート選択の評価
竹内直弥

移動観測法を活用した時空間暴露量による歩行空間評価の検証—下田市旧町を対象として—
田村浩大

スクールバスを活用した高校生の移動支援策の検討—千葉県君津市清和地区を対象として—
宮川佳歩

コミュニティバスの路線再編によるPDCAサイクルの評価—静岡県三島市「せせらぎ号」を対象として—
松村一輝

温泉観光地におけるデマンド型観光タクシーの共同運行に関する検討—静岡県伊東市を対象として—
後藤将斗

介護タクシーにおける車いす利用者の複数人利用の実態分析—千葉県を対象として—
渡邊逸真

高齢者及び子育て世帯を対象としたデマンド型交通の利用実態分析—東京都東久留米市を対象として—
矢嶋太気

千葉県我孫子市におけるタクシー・バスの協働型サービスの受容性評価
佐伯貴士

COVID-19拡大前後におけるデマンドタクシーの利用分析—千葉県横芝光町を対象として—
宮田靖弘

中山間地域における住民主体による送迎システム導入に向けた基礎分析—東北地方を対象として—
佐藤 佑

中山間地域における自動運転車の利用意向分析—東北地方を対象として—
小林勇貴

札幌市の交差点における歩行者の死傷事故リスク要因の分析
山野麻衣

エゾシカと車両の事故多発路線を対象とした事故発生要因推計モデルの比較
大見泰生

北海道におけるエゾシカと車両の事故発生による社会的外部費用の推計
和田将典

自動車のヘッドライト点灯によるヤンバルクイナの飛び出し状況の分析
岡村 拓

山梨県におけるリニア中央新幹線の環境影響評価に対する住民の意識分析
菊地隆夫

■ 空間情報研究室 (佐田達典 教授・江守 央 准教授) …

3次元点群データとGISを用いた歩道のバリアの可視化に関する研究
塚田幸佑

道路線形がMMSの計測精度に及ぼす影響に関する研究
吉田 遼

統計的・幾何的手法を用いた屋内空間点群データのノイズ除去自動化に関する研究
峰岸 樹

MMSによる建物壁面計測における計測精度に関する研究
兵藤迅大

MMSによるトンネル壁面のうきを想定した層厚計測における走行速度と測位衛星電波遮蔽が及ぼす影響
大木亜美

災害発生時におけるUAVとBluetooth電波を用いた被災者所有端末位置推定による被災者捜索手法の検討
瀬川大貴

3種の軌道上のBeiDou衛星の組み合わせが測位に与える影響に関する研究
吉田賢史

QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける最適な仰角マスク設定値の検証
山田 真

QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける信号強度の閾値設定に関する研究
入倉 望

移動体測位における天空図を用いた衛星除外方法による精度向上効果の分析
大手駿平

QZSSとBeiDouの併用による様々な遮蔽環境下での測位精度検証
川口遥朋

市街地における信号停止時のGNSSを用いた車両走行位置検出精度低下の要因分析
佐々木直人

モデルの複雑さがSfMを用いた三次元点群モデル化に与える影響に関する研究
江森 唯

SfMを用いた3次元点群データの作成とデータ合成に関する研究
工藤尋貴

3次元点群データを用いたVR空間での認識性の評価に関する研究
村田満政

ARサインを投影したスマートグラス着用時の歩行挙動の比較検証
宮阪浩平

オンライン会議システム等を用いたワークショップの実施方法の評価
大橋 航

■ 交通計画研究室 (小早川 悟 教授) ……………

駐車場の集約化が区内を通行する自動車の移動距離に与える影響
村上貴大

大規模な再開発エリアにおける路上駐車実態の変化に関する研究—渋谷駅周辺地区を対象として—
馬場祐太郎

附置義務駐車場条例の地域ルール基準の比較分析
小又梨紗子

自転車巻き込み対策の違いからみた交差点の通行実態分析
大谷祐樹

都市計画道路に着目した自転車通行空間整備に関する研究—千葉県鎌ヶ谷市を対象に—
野村太貴

来退店経路に着目した大規模小売店舗の交通アセスメントに関する研究—千葉県船橋市習志野台8丁目を対象として—
五十嵐千叡

ナンバープレートの照合に着目した交通量自動計測に関する基礎的研究
荻原瑛斗

鎌ヶ谷市における交通事故多発交差点におけるビデオカメラを用いた危険事象の分析
石井秀紀

PETを用いた信号交差点における右左折自動車と歩行者自転車との錯綜事象に関する分析
佐野 瞳

貨物車が複合ビル内に搬入する荷物量に関する基礎的研究
篠田歩美

避難所への支援物資供給のための無人航空機の整備台数に関する研究 鴨志田将希	輪荷重に伴うプレストレスの繰り返し作用による材料の力学的性質の挙動 君塚和大・島 友香
■ 道路マネジメント研究室 (下川澄雄 教授・吉岡慶祐 助教) ETC2.0プローブデータを用いた観光地渋滞の短期予測 古川泰地【桑原雅夫】	超音波速度と繰返し応力付与によるコンクリートの緻密化との関係に関する基礎的研究 鈴木祐太郎
ETC設備の劣化過程・故障傾向の分析 鈴木莉奈【桑原雅夫】	毛細血管用造影剤を用いたX線CT画像におけるひび割れの可視化精度の向上に関する基礎的研究 若杉俊輝
ラウンドアバウト導入後の走行速度の経年的変化の分析 中野彩織	鉄道遺構としての軌道の保存と展示に関する一考察 永田海斗
左折車の走行軌跡に基づくラウンドアバウト幾何構造要素の適切な組合せ条件の分析 江口美紅	■ 地盤工学研究室 (峯岸邦夫 教授・山中光一 助教) …… 短繊維混合補強土の補強効果に及ぼす締固めの影響 酒井健伍・山崎恵補
付加車線設置の効果と下流ボトルネックの渋滞発生状況に与える影響の検証 鈴木 歩	埋戻し材として用いた発泡ビーズ混入軽量化土の応力分散効果に及ぼす層厚の影響 遠藤敦人
都市間高速道路の臨界状態における大型車の乗用車換算係数に関する研究 露木雄大	溶融スラグの材料特性と地盤材料としての有効性 本保聡太
右左折専用車線における大型車の乗用車換算係数と幾何構造・交通特性との関係分析 山下翔雅	ILB舗装における敷砂の硬化対策としての竹パウダー混合砂の有効性 高波智一
交通シミュレーションによる動的信号制御の効果と交通量の観測精度の関係分析 野田真生	小型FWDによるILB舗装のたわみに及ぼすゴムバッファ硬度の影響 野田丈一郎
青丸表示中の右折車のギャップアクセプタンス挙動の分析 大概一喜	路床土における性能評価試験の精度と変形特性 篠崎未来・藤巻謙介
信号交差点における歩行者に対する左折車のギャップアクセプタンス挙動の分析 石井和成	異なる採取場所における関東ロームの物理特性とCBRの関係 小林健人
高齢運転者が信号交差点の飽和交通流率に及ぼす影響分析 野田知秀	重交通量区分へ用いる表面強化不織布の耐久性評価 加藤崇徳
多車線道路における直進車線の飽和交通流率の分析 南崎常史	表面強化不織布の重ね合わせ部の挙動に及ぼす重ね合わせ幅の影響 桑原拓己
2車線道路の飽和交通流率に関する分析 増田有輝	ジオグリッド補強土壁の挙動に及ぼす地下水位の影響 平井拓海
右折専用車線における飽和交通流率の変動要因分析 坂巻佑都	模型載荷試験を用いたジオグリッド補強土壁の強度特性に及ぼす地下水位の影響 松崎純平
ETC2.0プローブデータを用いた環状道路利用率と道路構造の関係分析—宇都宮環状道路を対象として— 友廣大成	ジオセル補強地盤の支持力および応力分散効果に及ぼすセル破断の影響 抜井 翼
通行機能が期待される道路の構造条件と速度サービスの関係に関する研究 楨 恭吾	模型盛土の排水効果に及ぼす排水材敷設間隔の影響 石川寛大
■ 構造工学研究室 (鈴木 圭 教授・齊藤準平 准教授) …… PRC構造における塩分浸透抵抗性とプレストレスの繰返し作用回数 松本渉平・森 葉月	
プレストレスの繰返し作用による繊維混入コンクリートの塩分浸透抵抗性 森 十喜生	

令和2年度 教員・研究員の研究・活動 2020.4.1~2021.3.31

研究業績

2020.4.1~2021.3.31

掲載誌・出版元	題目・作品名・書名	教員名など	発表年月
運輸交通計画研究室 (轟 朝幸 教授・兵藤 知 助教)			
■審査論文			
(一社)交通工学研究会 第40回交通工学研究発表会論文集	道路利用者の情報獲得量が事故リスク情報に対する態度や安全運転意識に与える影響構造に関する実証的研究	兵頭 知 西内裕晶 倉内慎也 吉井稔雄 大藤武彦	20年9月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 7巻2号A_202A_207	地方部での自動運転実証実験における手動介入発生特性と道路インフラ対策に関する分析	馬渡真吾 井坪慎二 金子雄一郎 佐野拓真 轟 朝幸	21年2月
Asian Transport Studies Volume 8	Factors Affecting Analysis of the Severity of Accidents in Cold and Snowy Areas Using the Ordered Probit Model	Satoshi Hyodo, Kenta Hasegawa	21年3月
■口頭発表			
(公社)土木学会 第61回土木計画学研究発表会	道路情報板による交通事故リスク情報提供実験の実施とドライバーの認知状況の把握	西内裕晶 兵頭 知 大藤武彦 吉井稔雄	20年6月
(一社)交通工学研究会 第40回交通工学研究発表会	地方部での自動運転実証実験における手動介入発生特性と道路インフラ対策に関する分析	馬渡真吾 井坪慎二 金子雄一郎 佐野拓真 轟 朝幸	20年9月
(公社)土木学会 第75回年次学術講演会	大規模停電時の信号減灯状態交差点における車両挙動特性および交通状況分析	兵頭 知 岡田航平 中畝彰吾	20年9月
(公社)土木学会 第75回年次学術講演会	非幹線道路ブロックエリアにおける事故リスク推計モデルの構築	岡田航平 兵頭 知	20年9月
(公財)交通事故総合分析センター 令和2年第23回交通事故・調査分析研究発表会	幹線道路に囲まれた非幹線道路ブロックエリアにおける交通事故リスク評価手法に関する研究	兵頭 知	20年11月
(公社)土木学会 第62回土木計画学研究発表会	Link & Place概念に基づく街路分類別の交通事故リスク特性に関する分析	兵頭 知 稲垣具志 三浦詩乃 大藪善久 石田祐也 宋 俊煥	20年11月
(公社)土木学会 第62回土木計画学研究発表会	人流データに基づく非幹線道路における歩車の空間占有状態と事故リスクの関係分析	岡田航平 兵頭 知 轟 朝幸	20年11月
(公社)土木学会 第62回土木計画学研究発表会	地方部における自動運転車両を活用した交通サービスの導入賛否に関する分析	馬渡真吾 金子雄一郎 佐野拓真 轟 朝幸 兵頭 知	20年11月
(公社)土木学会 第62回土木計画学研究発表会	道路情報板による交通事故リスク情報提供実験の実施とドライバーの認知に関する基礎分析	大藤武彦 西内裕晶 兵頭 知 倉内慎也 吉井稔雄	20年11月
(一社)交通工学研究会 第2回JSTEシンポジウム	「道路情報板」を活用した事故リスク情報提供による効果に関する実証的研究	兵頭 知	20年12月
■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)			
計画・交通研究会会報	成田空港の未来のカタチ—機能強化について	轟 朝幸	20年5月
Aviation Wire	著者に聞く『災害と空港』編者・轟朝幸さん	轟 朝幸	20年8月2日
千葉日報	新たな湾岸道路に関する座談会	轟 朝幸	20年9月30日
TBSテレビ 林先生の初耳学	通勤で一番早い乗り物は？	轟 朝幸	20年10月11日
ケーブルテレビネット NEXTEP～地域から…未来への提言～	高齢ドライバーによる事故を減らすには #3	轟 朝幸	20年11月
ケーブルテレビネット NEXTEP～地域から…未来への提言～	高齢ドライバーによる事故を減らすには #4	轟 朝幸	20年12月
新京成グループ 社内報 Leaf No.183	日本大学理工学部 轟教授に聞く!「MaaSの未来」	轟 朝幸	21年1月
土木学会誌 Vol.106, No.2	離島交通の未来 水上飛行機による離島創生	轟 朝幸	21年2月
関西空港調査会 KANSAI空港レビュー No.507	水上飛行機、聖地巡礼—世界の水上空港を尋ねて	轟 朝幸	21年2月

交通システム研究室 (福田 敦 教授・石坂哲宏 准教授・菊池浩紀 助手)

■著書

コロナ社 改訂 交通計画学 第8章4節, 第9章1節~3節 金子雄一郎 有村幹治 21年3月
石坂哲宏

■審査論文

(公社)土木学会 貨物車の走行データと路上駐車実態データを用いた貨物車 鳥居祐乃介 小早川悟 20年4月
土木学会論文集D3 (土木計画学) 集中地区の実態分析 菊池浩紀

Journal of Traffic and Transportation Engineering Vol.8, pp. 20-28 Macroscopic Fundamental Diagrams According to the Different Flood Depths on Probe Vehicle Data in Urban Bangkok Piyapong Suwanno, Prasan Jitpat, Ratthanaporn Kasemsri, Behala Aditya, Atsushi FUKUDA 20年4月

Proceeding of the 38th International Conference of the System Dynamics Society Study on Cooperative Delivery Focusing on Delivery Times of Truck Drivers in Multi-story Buildings Tomohiro MORI, Satoru KOBAYAKAWA, Hiroki KIKUCHI 20年7月

(一社)交通工学研究会 交通事故多発交差点における右折自動車と横断者の危険事象の発生状況の分析 石田翔平 小早川悟 20年9月
第40回交通工学研究発表会論文集 pp. 125-130 菊池浩紀

(一社)交通工学研究会 ニュータウンにおける自転車通行空間整備状況の実態分析 佐藤拓郎 小早川悟 20年9月
第40回交通工学研究発表会論文集 pp. 681-688 小柳純也 菊池浩紀

(一社)交通工学研究会 駐車場の集約化が駐車場利用者の歩行距離に与える影響の評価 櫻井和輝 小早川悟 20年9月
第40回交通工学研究発表会論文集 pp. 759-765 菊池浩紀

(一社)交通工学研究会 路上に設置された荷さばき貨物車用駐車施設の運用方法に関する研究 関 陽一 小早川悟 20年9月
第40回交通工学研究発表会論文集 pp. 783-788 菊池浩紀 周 友梨 大塚慎也

IEEE TRANSACTIONS ON INTELLIGENT TRANSPORTATION SYSTEMS, pp. 1-11 Detection of Collision-Prone Vehicle Behavior at Intersections Using Siamese Interaction LSTM Debaditya Roy, Tetsuhiro ISHIZAKA, C. Krishna Mohan, Atsushi FUKUDA 20年10月

日本環境共生学会 Relocation Behavior of Residents due to Flooding in Cagayan de Oro City, Phillippines Noriyasu TSUMITA, Alexis Fillone, Anabel Abuza, Avalyn Cahulogan, Atsushi FUKUDA 21年3月
Vol.37

日本環境共生学会 Impact of Rainfall Intesity on Macroscopic Traffic Variabls of Urban Roads Using Data from Bluetooth Detectors Piyapong Suwanno, Prasan Jitpat, Ratthanaporn Kasemsri, Atsushi FUKUDA 21年3月
環境共生 Vol.37

■口頭発表

Proceeding of the 25th National Convention on Civil Engineering Analysis of Impact of Introduction of Bus Rapid Transit on Land Price in Developing City- Case Study of Managua City, Republic of Nicaragua Lisako KUGII, Atsushi FUKUDA, Noriyasu TSUMITA, Hiroki KIKUCHI 20年7月

Proceeding of the 25th National Convention on Civil Engineering Modal Choice after Opening New Railway in Bangkok - Case of Dark Red Line - Noriyasu TSUMITA, Bethala Aditya, Varameth Vichiensan, Jetpan Wetwitoo, Atsushi FUKUDA 20年7月

5th International Conference on Economics, Business, Tourism & Social Sciences Collection on the Arterial Road Network, Bangkok, Thailand Rattanaporn Kasemsri, Tetsuhiro ISHIZAKA, Atsushi FUKUDA, Piyapong Suwanno 20年7月

5th International Conference on Economics, Business, Tourism & Social Sciences Reliability of Breath First Seach Finding Missing Link of Bluethooth Data Collection: Case Study Bangkok, Thailand Rattanaporn Kasemsri, Piyapong Suwanno, Atsushi FUKUDA, Tetsuhiro ISHIZAKA, Sorawit Narupiti 20年7月

(公社)土木学会 インド・アーメダバードの混合交通を考慮したマイクロ交通シミュレーションの走行挙動設定と交差点信号制御の検討 藤枝和津 石坂哲宏 20年9月
第75回年次学術講演会

(公社)土木学会 VEHICLE DETECTION AND COUNTING FOR VEHICLE TYPES OF MOTORCYCLE AND AUTO RICKSHAW USING DEEP LEARNING 田代大智 石坂哲宏 20年9月
第75回年次学術講演会

日本環境共生学会 Impact of Rainfall Intesity on Macroscopic Traffic Variabls of Urban Roads Using Data from Bluetooth Detectors Piyapong Suwanno, Prasan Jitpat, Ratthanaporn Kasemsri, Atsushi FUKUDA 20年9月
第23回学術大会

日本環境共生学会 Relocation Behavior of Residents due to Flooding in Cagayan de Oro City, Phillippines Noriyasu TSUMITA, Alexis Fillone, Anabel Abuza, Avalyn Cahulogan, Atsushi FUKUDA 20年9月
第23回学術大会

3rd International Conference on Sustainable Infrastructure Analysis of travel behaviors during floods in Ubon Ratchathani City, Thailand Noriyasu TSUMITA, Sittha JAENSIRISAK, Hiroki KIKUCHI, Atsushi FUKUDA 20年11月

ITS Japan UAVによる交差点上空映像を用いた衝突危険度に関する分析 土井悠輔 20年12月
第18回ITSシンポジウム2020 Roy DEBADITYA 石坂哲宏 福田 敦

13th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2020 A Study over Traveler Priority in Choosing the Mode of Transportation for Daily Commuting in Developing Countries Using the Analytic Hierarchy Process: A Case Study in Hyderabad, India Bethala ADITYA, Annapureddy NAGA VAMSI KRISHNA, Tetsuhiro ISHIZAKA, Atsushi FUKUDA 20年12月

13th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2020 Analysis of Impact of COVID-19 Measures on Travel Behavior: Perspective from International Comparison Hiroki KIKUCHI, Yoshihiro USHIJIMA, Atsushi FUKUDA 20年12月

13th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2020 Evaluation of Accessibility for Road Transport during Urban Flood -The Case Study of Ubon Ratchathani, Thailand- Noyiyasu TSUMITA, Sittha Jaensrisak, Atsushi FUKUDA 20年12月

(公社)土木学会 ロードプライシングとBRT同時導入時の利用者転換に関する研究—フィリピン・メトロセブを対象として— 釘井里紗子 福田 敦 21年3月
関東支部第48回技術研究発表会 石坂哲宏

(公社)土木学会 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が交通行動の変容に与えた影響の国際比較—アジアとヨーロッパの7ヶ国を対象として— 牛嶋祥寛 福田 敦 21年3月
関東支部第48回技術研究発表会 菊池浩紀

(公社)土木学会 プローブデータを用いた洪水発生時の交通状態に与える影響の分析—タイ・ウボンラチャタニ市を対象として— 宮村幸我 積田典泰 21年3月
関東支部第48回技術研究発表会 福田 敦

(公社)土木学会 オートバイ運転者の安全意識と運転行動の比較—アジア都市を対象として— 御代川岳 小泉 陸 21年3月
関東支部第48回技術研究発表会 福田 敦

■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

White Paper on Development Cooperation 2019, Japan's International Cooperation, p.100 (外務省) Toward Constructing Smart Cities in India Aimed at Realizing a Society with Low-Carbon Energy 福田 敦 20年

国際交通安全学会 報告書 Road Traffic Safety Guideline in Suphan Buri 福田 敦 菊池浩紀 20年10月
新建築社 Public transport and pedestrian space improve traffic congestion and air pollution in Bangkok 福田 敦 20年11月
The Japan Architect 118, Winter 2020, pp.82-87

高速道路調査会 高速道路と自動車 センシングデータの潜在価値の顕在化 石坂哲宏 20年11月
Vol.63, No.11

交通工学研究会 交通工学 インドにおける深層学習を用いた混合交通車両検出技術 坪井 務 石坂哲宏 21年1月
vol.56, No.1 Debaditya Roy 関 弘翔 西脇大輔 高橋 聡

環境共生 日本環境共生学会第23回(2020年度)学術大会実施報告 中根英昭 石橋健一 21年3月
VOL.37, No.1 林希一郎 福田 敦 古沢 浩 松本 亨 鐘ヶ江秀彦 九里徳泰 伊東英幸 豊田祐輔 藤山淳史 菊池浩紀 積田典泰 森下英治

交通環境研究室 (藤井敬宏 教授・伊東英幸 准教授)

■著書
 「野生生物と社会」学会 Wildlife Forum Vo.25, Issue1 特集 野生生物保護管理の最前線「エゾシカと車両の事故発生要因の分析」 伊東英幸 20年4月

■審査論文
 Proceedings of 6th International Conference on Structure, Engineering & Environment, pp. 264-269 ASSESSMENT OF HABITAT SUITABILITY AREA OF ENDANGERED SPECIES USING MAXENT BY LAND USE CHANGE IN FUKUSHIMA PREFECTURE, JAPAN Hideyuki Ito, Hiromu Tomita, Makoto Ooba, Takahiro Fujii 20年11月
 International Journal of GEOMATE (18巻68号) ANALYSIS OF HABITAT AREA FOR ENDANGERED SPECIES USING MAXENT BY URBANIZATION IN CHIBA, JAPAN Hideyuki Ito, Koji Hayakawa, Makoto Ooba, Takahiro Fujii 20年4月

■口頭発表
 日本環境共生学会 第23回学術大会 エゾシカと車両の事故多発路線を対象とした事故発生要因モデルの比較分析 鈴木絢人 伊東英幸 藤井敬宏 20年9月
 日本環境共生学会 第23回学術大会 中山間地域における自動運転車の導入に向けた基礎分析—福島県三島町南部を対象として— 星野遼太 伊東英幸 藤井敬宏 大場 真 中村省吾 20年9月
 環境アセスメント学会 第19回大会 山梨県におけるリニア中央新幹線の環境影響評価に対する計画沿線住民の意識分析 伊東英幸 山口公輝 菊地隆夫 藤井敬宏 20年9月
 (一社)日本福祉のまちづくり学会 第23回全国大会 地下鉄駅におけるエレベーター新設に伴う生活関連施設へのアクセス改善効果—車いす使用者を対象として— 齋藤 望 藤井敬宏 伊東英幸 20年10月
 (一社)日本福祉のまちづくり学会 第23回全国大会 要介護者のユニバーサルデザインタクシーの利用意向の検討—千葉県の介護タクシー利用者を対象として— 福田捷樹 藤井敬宏 伊東英幸 20年10月
 (公社)土木学会 第48回関東支部技術研究発表会 中山間地域における自動運転車の利用意向分析—東北地方を対象として— 星野遼太 小林勇貴 伊東英幸 大場 真 中村省吾 藤井敬宏 21年3月

■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)
 環境省九州地方環境事務所 (発行:北海道開発技術センター) 対馬から発信! 野生生物と交通事故を考えるシンポジウム開催報告集 山本以智人 浅利裕伸 伊東英幸 辻 維周 園田陽一 本田裕子 沼倉真帆 野呂美紗子 山元貴裕 21年2月
 環境共生 VOL.37, No.1 日本環境共生学会第23回(2020年度)学術大会実施報告 中根英昭 石橋健一 林希一郎 福田 敦 古沢 浩 松本 亨 鐘ヶ江秀彦 九里徳泰 伊東英幸 豊田祐輔 藤山淳史 菊池浩紀 横田典泰 森下英治 21年3月

空間情報研究室 (佐田達典 教授・江守 央 准教授)

■審査論文
 (公社)日本測量協会 応用測量論文集 31巻pp. 45-54 マルチGNSSによる高精度衛星測位におけるGLONASSの利用効果に関する検討 宇野敬太 佐田達典 江守 央 20年7月
 (公社)日本測量協会 応用測量論文集 31巻pp. 55-66 VRS測位におけるQZSS併用による測位精度向上効果の検証 江守 央 甲高直弥 佐田達典 20年7月
 (公社)日本測量協会 応用測量論文集 31巻pp. 67-78 位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSによる層厚検出精度の基礎的研究 藤村大輔 笹野拓海 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典 江守 央 20年7月
 (公社)日本測量協会 応用測量論文集 31巻pp. 79-88 高層ビル街における車両挙動がもたらすGNSS精度劣化要因の分析とSNRマスクの有用性の検討 宮澤 壘 佐田達典 江守 央 20年7月
 (公社)日本測量協会 応用測量論文集 31巻pp. 133-142 QZSSのセンチメートル級測位補強サービスCLASを用いた静止測位実験と測位解の特性に関する基礎的検討 杉山 海 佐田達典 江守 央 20年7月

(公社)土木学会 土木学会論文集F3(土木情報学)(77巻2号) GPS/QZSSにGalileoを併用した高精度衛星測位における衛星選択方法に関する検討 宇野敬太 佐田達典 江守 央 21年3月
 (公社)土木学会 土木学会論文集F3(土木情報学)(77巻2号) 街路走行時の高精度測位における信号強度の差を用いた車両挙動別の衛星除外効果の検証 宮澤 壘 佐田達典 江守 央 21年3月
 (公社)土木学会 土木学会論文集F3(土木情報学)(77巻2号) MMSによるトンネル天井を想定した上部空間の計測精度に関する基礎的研究 笹野拓海 藤村大輔 山口裕哉 白石宗一郎 岩上弘明 佐田達典 江守 央 21年3月
 (公社)土木学会 土木学会論文集F3(土木情報学)(77巻2号) 位相差方式レーザスキャナを用いたMMSによる円盤層厚検出精度に走行速度と測位衛星補正が及ぼす影響に関する基礎的研究 藤村大輔 笹野拓海 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典 江守 央 21年3月
 (一社)日本福祉のまちづくり学会 福祉のまちづくり研究 22巻paper号pp. 35-46 旅客通路に設置される誘導サインの視認性評価による設置条件に関する研究 太田耕介 江守 央 佐田達典 21年3月

■口頭発表
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 地上型レーザスキャナーの設置高さによる計測精度に関する実験 樋口智明 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 MMSによる層厚検出における走行速度の影響に関する基礎的研究 笹野拓海 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 様々な歩道構造における3次元点群データを用いたバリア検出手法の検討 奈良部長昌 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSによる層厚検出精度の基礎的研究 藤村大輔 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典 江守 央 20年9月

(公社)土木学会 第75回年次学術講演会 都市部移動体におけるGPS/QZSSとGalileoの併用効果に関する研究 宇野敬太 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 アーバンキャニオン環境下のGNSS測位におけるSNRマスク適用効果の検証と最適値の算出 宮澤 壘 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 QZSSのセンチメートル級測位補強サービスCLASを用いた固定測位実験から取得される測位解の特性に関する基礎的検討 杉山 海 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 QZSSを併用した衛星測位の車両位置検出への適用に関する研究 中嶋和希 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 Space Syntax理論を用いた生活関連施設と経路の一体的なバリアフリー化に関する分析 瀬戸山竜二 江守 央 佐田達典 20年9月
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 HMDとコントローラを使用したVR歩行実験における旋回行動の分析 木戸慎也 江守 央 佐田達典 20年9月
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 車いすのルート案内に向けた点群データによるバリアの可視化 八木澤柊斗 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第75回年次学術講演会 旅客通路を想定した仮想空間における吊り下げ型サインの設置間隔に関する研究 太田耕介 江守 央 佐田達典 20年9月
 (公社)土木学会 第45回土木情報学シンポジウム 3次元点群データを用いた機械学習による道路の白線劣化部の抽出 江守 央 佐田達典 岡島正哲 20年9月
 (公社)土木学会 第45回土木情報学シンポジウム MMSによる上部空間の計測精度に関する基礎的研究 笹野拓海 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第45回土木情報学シンポジウム 位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSの走行速度と層厚検出精度に関する基礎的研究 藤村大輔 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第45回土木情報学シンポジウム 高精度衛星測位におけるGalileoの利用方法に関する検討 宇野敬太 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第45回土木情報学シンポジウム 準天頂衛星システムと他の衛星測位システムとの組み合わせによる測位精度の評価 照井理仁 佐田達典 江守 央 20年9月
 (公社)土木学会 第45回土木情報学シンポジウム QZSSのセンチメートル級測位補強サービスCLASを用いた測位解の基礎的検討 杉山 海 佐田達典 江守 央 20年9月

(公社)土木学会 第45回土木情報学シンポジウム	都市遮蔽環境下でのGNSS測位における測位信号の受信動向解析と衛星除外効果の検証	宮澤 壘 佐田達典 江守 央	20年9月
(一社)日本福祉のまちづくり学会 第23回全国大会	Space Syntax 理論を用いた生活関連経路決定手法に関する研究	瀬戸山竜二 佐田達典 江守 央	20年10月
(一社)日本福祉のまちづくり学会 第23回全国大会	VRを活用したサイン計画の基礎的検討	木戸慎也 佐田達典 江守 央	20年10月
(一社)日本写真測量学会 令和2年度秋季学術講演会	位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSによる層厚検出実験における走行速度が検出精度に及ぼす影響の分析	藤村大輔 岡本直樹 白石宗一郎 山口裕哉 岩上弘明 佐田達典 江守 央 笹野拓海	20年11月
(一社)日本写真測量学会 令和2年度秋季学術講演会	MMSによる上部空間計測における計測方向が及ぼす影響に関する基礎的研究	笹野拓海 岡本直樹 白石宗一郎 山口裕哉 岩上弘明 佐田達典 江守 央 藤村大輔	20年11月
(公社)土木学会 第62回土木計画学研究発表会	車いすの走行位置決定への三次元点群データの活用可能性	八木澤柊人 佐田達典 江守 央	20年11月
(公社)土木学会 第62回土木計画学研究発表会	Space Syntax 理論を用いた移動円滑化促進方針の生活関連経路決定方法に関する研究	瀬戸山竜二 佐田達典 江守 央	20年11月
(公社)土木学会 第62回土木計画学研究発表会	HMDを用いたVR環境での案内サイン判読性評価の検討	木戸慎也 佐田達典 江守 央	20年11月
第64回日本大学理工学部学術講演会	準天頂衛星システムのCLASにおける信号強度と測位解の関係	入倉 望 佐田達典 江守 央 杉山 海	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	準天頂衛星システムのセンチメートル級測位補強サービスで得られる測位解の変動に関する研究	山田 真 佐田達典 江守 央 杉山 海	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	準天頂衛星システムと他の衛星測位システムとの併用効果に関する研究	照井理仁 佐田達典 江守 央	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	GPS/QZSS/Galileoによる高精度測位の情報化施工への適用効果に関する研究	宇野敬太 佐田達典 江守 央	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	災害発生時におけるWi-Fi・Bluetooth等を用いた被災者捜索手法について	瀬川大貴 佐田達典 江守 央 笹野拓海	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	高精度衛星測位による走行車両位置検出における周辺環境が信号停止時の精度に及ぼす影響の検証	佐々木直人 佐田達典 江守 央 宮澤 壘	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	BeiDouの3種の衛星軌道とその組み合わせが測位に与える影響に関する研究	吉田賢史 佐田達典 江守 央 宇野敬太	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける高精度測位解の時間間隔別算出の検討	杉山 海 佐田達典 江守 央	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	準天頂衛星測位システムQZSSとBeiDouの併用による測位精度の検証	川口遙朋 佐田達典 江守 央 照井理仁	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	街路車両走行時での高精度衛星測位における受信信号強度の差を用いた利便性向上に関する研究	宮澤 壘 佐田達典 江守 央	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	一眼レフカメラを用いたSfMにおける撮影条件の影響	工藤尋貴 佐田達典 江守 央 瀬戸山竜二	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	SfMを用いたプレゼンテーションモデルの三次元点群データ作成に関する研究	江森 唯 佐田達典 江守 央 瀬戸山竜二	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSによる測位衛星電波遮蔽環境を想定した層厚検出実験における走行速度が検出精度に及ぼす影響の分析	藤村大輔 岡本直樹 白石宗一郎 山口裕哉 岩上弘明 佐田達典 江守 央 笹野拓海	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSによる壁面の層厚計測に関する基礎的研究	大木亜美 岡本直樹 白石宗一郎 山口裕哉 岩上弘明 佐田達典 江守 央 藤村大輔	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	MMSの上部空間計測におけるレーザスキャナ性能の違いによる計測精度への影響に関する基礎的研究	笹野拓海 岡本直樹 白石宗一郎 山口裕哉 岩上弘明 佐田達典 江守 央 藤村大輔	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	MMSの上部空間計測におけるレーザスキャナ性能の違いによる計測精度への影響に関する基礎的研究	大橋 航 江守 央 佐田達典 瀬戸山竜二	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	Space Syntax 理論を用いた新宿駅周辺における接続性向上に関する研究	瀬戸山竜二 江守 央 佐田達典	20年12月

第64回日本大学理工学部学術講演会	VRを用いた案内サインの判読性実験に関する研究	木戸慎也 江守 央 佐田達典	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	三次元点群データの車いすの走行位置決定への活用可能性	八木澤柊斗 江守 央 佐田達典	20年12月
第64回日本大学理工学部学術講演会	3次元点群データを用いた仮想空間での認識性の評価に関する研究—静岡県オープンデータを用いて—	村田満政 木戸慎也 江守 央 佐田達典	20年12月
■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）			
日本福祉のまちづくり学会 福祉のまちづくり研究 22巻2号（通刊52）	この一冊『都市のイメージ IMAGE of CITY』 ケヴィン・リンチ 丹下健三・富田玲子（翻訳）	江守 央	20年7月
交通計画研究室（小早川 悟 教授・田部井優也 助手）			
■著書			
(一社)交通工学研究会	改訂自転車通行を考慮した交差点設計の手引—平面交差の計画と設計	久保田尚 山中英生 松原 淳 小早川悟 ほか	20年10月
■審査論文			
(公社)土木学会 土木学会論文集F3（土木情報学） 75巻2号I_48-I_56	次世代公共交通導入における3DVR都市交通流モデリングシステムの開発	永井 徹 田部井優也 長田哲平 大森宣暁 新 吉高	20年4月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 6巻4号A_14-A_21	軌道系交通との接触事故防止を目的とした3DVRコンテンツの効果に関する研究	永井 徹 田部井優也 渡邊浩大 長田哲平 大森宣暁 新 吉高	20年4月
(公社)土木学会 土木学会論文集D3（土木計画学） 75巻6号I_575-I_582	貨物車の走行データと路上駐車実態データを用いた貨物車集中地区の実態分析	鳥居祐乃介 小早川悟 菊池浩紀	20年4月
Proceeding of the 38th International Conference of the System Dynamics Society（38巻）	Study on Cooperative Delivery Focusing on Delivery Times of Truck Drivers in Multi-story Buildings	Tomohiro MORI, Satoru KOBAYAKAWA, Hiroki KIKUCHI	20年7月
(一社)交通工学研究会 第40回交通工学研究発表会	路側に設置した簡易撮影機器の動画による交通量自動計測に関する基礎的研究	菅原宏明 小篠耕平 藤井純一郎 大久保順一 小早川悟	20年9月
(一社)交通工学研究会 第40回交通工学研究発表会	ニュータウンにおける自転車通行空間整備状況の実態分析	佐藤拓郎 小早川悟 小柳純也 菊池浩紀	20年9月
(一社)交通工学研究会 第40回交通工学研究発表会	交通事故多発交差点における右折自動車と横断者の危険事象の発生状況の分析	石田翔平 小早川悟 菊池浩紀	20年9月
(一社)交通工学研究会 第40回交通工学研究発表会	駐車場の集約化が駐車場利用者の歩行距離に与える影響の評価	櫻井和輝 小早川悟 菊池浩紀	20年9月
(一社)交通工学研究会 第40回交通工学研究発表会	路上に設置された荷さばき貨物車用駐車施設の運用方法に関する研究	関 陽一 小早川悟 菊池浩紀 周 友梨 大塚慎也	20年9月
(一社)交通工学研究会 第40回交通工学研究発表会	駐車場出入口の構造の違いが自動車交通流に与える影響に関する分析	田部井優也	20年9月
(公社)日本都市計画学会 都市計画論文集 55巻3号pp. 1071-1077	建築物属性に着目した食料品店の立地動向に関する研究	田部井優也 三橋伸夫	20年10月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 7巻2号A_160-A_166	運用方法が異なる荷さばき貨物車用路上駐車施設の比較分析	関 陽一 小早川悟 菊池浩紀	21年2月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 7巻2号A_78-A_85	交通事故多発交差点における右折自動車と横断者の危険事象の詳細分析	石田翔平 小早川悟 菊池浩紀 田部井優也	21年2月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 7巻2号A_151-A_159	駐車場利用者の徒歩距離からみた駐車場の集約化の影響分析	櫻井和輝 小早川悟 菊池浩紀 田部井優也	21年2月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 7巻2号A_142-A_150	千葉ニュータウンにおける自転車通行実態からみた自転車専用通行帯の幅員確保のための道路空間再配分の検討	佐藤拓郎 小早川悟 小柳純也 菊池浩紀 田部井優也	21年2月

■口頭発表

(一社)人工知能学会 第34回全国大会 車種別交通量調査への深層学習の応用システムの提案 大久保順一 菅原宏明 20年6月 藤井純一郎 小篠耕平 小早川悟 和田英之

■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

京都新聞 倒木被害防止へ対応模索 小早川悟 20年12月6日

道路マネジメント研究室(下川澄雄 教授・吉岡慶祐 助教・青山恵里 助手)

■審査論文

Accident Analysis & Prevention (145巻) p.105702 Modeling of a Novel Risk Index for Evaluating the Geometric Designs of Roundabouts Keisuke Yoshioka, Hideki Nakamura, Sumio Shimokawa, Hirohisa Morita 20年7月

Asian Transport Studies (6巻) Estimating saturation flow rates at signalized intersections in Japan Eri Aoyama, Keisuke Yoshioka, Sumio Shimokawa, Hirohisa Morita 20年8月

(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 7巻1号 pp.1-10 飽和交通流率の変化とその要因に関する研究 青山恵里 下川澄雄 吉岡慶祐 森田緯之 21年1月

(公社)土木学会 土木学会論文集D3(土木計画学) 76巻5号 都道府県を形成する都市間連絡のための目標旅行時間に関する研究 齊藤浅里 下川澄雄 吉岡慶祐 花房比佐友 21年3月

(公財)高速道路調査会 高速道路と自動車 64巻3号 ボトルネック上流での渋滞巻き込まれ状況が下流ボトルネックの渋滞発生時交通量に与える影響 吉岡慶祐 下川澄雄 森田緯之 本間英貴 鎌田泰典 小宮奈保子 鳥海航太 21年3月

■口頭発表

(公社)土木学会 第61回土木計画学研究発表会 飽和交通流率の低下が交通社会に与える影響に関する考察 青山恵里 下川澄雄 吉岡慶祐 森田緯之 20年6月

(公社)土木学会 第75回年次学術講演会 都市間高速道路における渋滞発進時の大型車の乗用車換算係数に関する研究 山下隆司 青山恵里 下川澄雄 吉岡慶祐 20年9月

(公社)土木学会 第62回土木計画学研究発表会 交差点の信号遅れを考慮した立体交差点が成立可能となる交通条件の分析 真岩優多 下川澄雄 吉岡慶祐 山川英一 藤間翔太 20年11月

第64回日本大学理工学部学術講演会 信号交差点の飽和交通流率と運転者属性の関係性に関する一考察 浅見公一 野田知秀 青山恵里 下川澄雄 吉岡慶祐 20年12月

第64回日本大学理工学部学術講演会 都市部における立体交差点が成立可能となる交通条件の分析 真岩優多 下川澄雄 吉岡慶祐 青山恵里 20年12月

第64回日本大学理工学部学術講演会 都心部への流入抑制機能を果たす環状道路のサービス速度に関する研究—特に地方都市を対象として— 鈴木龍一 下川澄雄 吉岡慶祐 青山恵里 20年12月

(公社)土木学会 関東支部第48回技術研究発表会 都心部への流入抑制機能を果たす環状道路のサービス速度に関する研究—特に地方都市を対象として— 鈴木龍一 友廣大成 下川澄雄 吉岡慶祐 21年3月

(公社)土木学会 関東支部第48回技術研究発表会 信号交差点の飽和交通流率と運転者属性の関係性に関する研究 浅見公一 野田知秀 青山恵里 下川澄雄 21年3月

(公社)土木学会 関東支部第48回技術研究発表会 右左折専用車線における大型車の乗用車換算係数とその特徴分析 リュウユイシン 青山恵里 山下翔雅 吉岡慶祐 下川澄雄 21年3月

(公社)土木学会 関東支部第48回技術研究発表会 青丸表示中の右折車のギャップアクセプタンス挙動の分析 岩澤和輝 青山恵里 下川澄雄 吉岡慶祐 21年3月

(公社)土木学会 関東支部第48回技術研究発表会 信号交差点における歩行者に対する左折車のギャップアクセプタンス挙動の分析 石井和成 青山恵里 下川澄雄 吉岡慶祐 21年3月

(公社)土木学会 関東支部第48回技術研究発表会 通行機能が期待される道路の構造条件と速度サービスの関係に関する研究 横 恭吾 下川澄雄 吉岡慶祐 21年3月

(公社)土木学会 関東支部第48回技術研究発表会 都市間高速道路の臨界状態における大型車の乗用車換算係数に関する研究 露木雄大 吉岡慶祐 下川澄雄 青山恵里 21年3月

(公社)土木学会 関東支部第48回技術研究発表会 右折専用車線における飽和交通流率の変動要因分析 坂巻佑都 下川澄雄 青山恵里 吉岡慶祐 21年3月

(公社)土木学会 関東支部第48回技術研究発表会 ETC2.0プローブデータを用いた環状道路利用率と道路構造の関係分析—宇都宮環状道路を対象として— 友廣大成 下川澄雄 吉岡慶祐 21年3月

■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

交通工学研究会 交通工学 Vol.55, No.4, pp.64-71 講座 道路構造—道路を賢く使う時代における道路構造のあり方—第4回「これからの道路構造基準」 下川澄雄 20年10月

構造工学研究室(鈴木 圭 教授・齊藤準平 准教授)

■審査論文

(公社)日本コンクリート工学会 コンクリート工学年次論文集 42巻 pp.569-574 プレストレスの繰り返し作用を受けるコンクリートの見掛けの拡散係数 齊藤準平 立石一洋 佐藤元紀 20年7月

(公社)日本材料学会 コンクリート建造物の補修, 補強, アップグレードシンポジウム論文報告集 20巻 pp.151-154 毛細血管用造影剤を適用したX線CT法によるひび割れの可視化 齊藤準平 河野亮太 赤沼圭一郎 20年10月

(公財)プレストレストコンクリート工学会 第29回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集 pp.393-398 プレストレスを受けるコンクリートの拡散係数による塩分浸透抵抗性の評価 齊藤準平 立石一洋 川崎悠平 中山昂大 20年10月

■口頭発表

(公社)土木学会 第75回年次学術講演会 コンクリート建造物の近接目視点検におけるひび割れ幅の目視計測誤差に関する量的研究 齊藤準平 塩川 響 20年9月

■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

理工図書 土木技術 75巻7号 pp.46-51 特集 夏休みと土木「コンクリートカヌー大会への挑戦」 齊藤準平 20年7月

地盤工学研究室(峯岸邦夫 教授・山中光一 助教)

■審査論文

国際ジオシンセティックス学会日本支部 ジオシンセティックス論文集 35巻 pp.7-14 ジオセル補強路盤の補強効果に及ぼす補強材条件とその影響度に関する研究 山中光一 峯岸邦夫 橋本 凌 20年12月

(公社)土木学会 土木学会論文集E1(舗装工学論文集第25巻) 76巻2号 I_269-I_277 透水性舗装のフィルター層に用いる強化不織布の必要性能の検討 山中光一 峯岸邦夫 小野寺貴史 黄 亮 柳沼宏始 20年12月

(公社)地盤工学会 地盤工学会誌 Vol.68, No.12, Ser.No.755, pp.49-59 交通地盤工学に関する基礎講座 第4章 表層材料, 路盤・路床材料 木幡行宏 鎌田 修 小関裕二 峯岸邦夫 山中光一 川端伸一郎 20年12月

■口頭発表

(公社)地盤工学会 第55回地盤工学研究発表会 K30値とKPFWD値の関係に及ぼす小型FWD載荷板直径の影響 山中光一 峯岸邦夫 木幡行宏 関根悦夫 20年7月

(公社)地盤工学会 第55回地盤工学研究発表会 地下水位を考慮したジオグリッド補強土壁の壁面変位に及ぼす背面盛土地盤状態の影響 橋本 凌 峯岸邦夫 山中光一 久保哲也 20年7月

(公社)土木学会 第75回年次学術講演会 軟弱路床対策工法として用いた表面強化不織布の適用性に関する検討 山中光一 峯岸邦夫 黄 亮 小野寺貴史 柳沼宏始 20年9月

(公社)土木学会 第75回年次学術講演会 歩行者を対象としたブロック系舗装の歩きやすさと性能指標の関係 宍倉直樹 峯岸邦夫 山中光一 20年9月

第17回地盤工学会関東支部発表会 (GeoKanto2020) 裁断した不織布を混合した地盤材料の力学特性 宍倉直樹 峯岸邦夫 山中光一 20年11月

(公社)土木学会 関東支部第48回技術研究発表会 模型盛土内水位に及ぼす排水材敷設間隔の検討 関根 碧 峯岸邦夫 山中光一 石川寛大 21年3月

社会的活動

2020. 4. 1～2021. 3. 31

■小早川 悟 教授

(公社)日本交通政策研究会 貨物車の駐車実態に基づいた荷さばき駐車スペース確保のための分析 プロジェクト・リーダー

(公社)日本交通政策研究会 これからの道路政策―海外との違いから考える― 委員

(公財)国際交通安全学会 英文論文編集委員会

(公財)国際交通安全学会 インドの小規模都市における地域に根差した道路デザインの社会実装 プロジェクト・リーダー

(一社)交通工学研究会 駐車場地域ルール検討委員会 委員

(一社)交通工学研究会 日本型道路交通安全監査 委員

(一社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計 計算ソフト検討小委員会 委員長

警視庁交通部 観光バス駐車対策分科会 会長

警察庁科学警察研究所 特別研究員

東京都都市整備局 駐車場条例検討委員会 委員

東京都都市整備局 歩行者中心の道路空間の活用マニュアル検討会 委員

渋谷区 駐輪場配置計画検討会 会長

渋谷区 代々木地区駐車場地域ルール策定委員会 会長

渋谷区 代々木駅周辺地区駐車場整備計画策定委員会 会長

中央区 銀座地区交通環境改善協議会 委員

中央区 東京駅前地区駐車場地域ルール運営委員会 副会長

港区 駐車場地域ルール策定協議会 会長

立川市交通対策課 立川駅ターミナル連絡会 会長

千葉県 大規模小売店舗立地審議会 専門委員

佐倉市 地域公共交通会議 副会長

船橋市 交通ビッグデータ見える化協議会 副会長

大丸有・神田地区等グリーン物流促進協議会 会長

■佐田達典 教授

(公社)土木学会 土木情報学委員会 インドアポジショニング技術研究小委員会 副委員長

(公社)日本測量協会 電子基準点を利用したリアルタイム測位推進協議会 会長

(公社)日本測量協会 応用測量論文編集委員会 委員長
(公社)日本測量協会 理事

(一財)日本建設情報総合センター 理事

(一財)道路管理センター 評議員

(一社)全国土木施工管理技士会連合会 企画運営委員会 委員

(一社)全国土木施工管理技士会連合会 企画事業委員会 委員長

国土交通省国土地理院 測量行政懇談会 副委員長

国土交通省国土地理院 測量行政懇談会 3次元地図検討部会 部長

国土交通省国土地理院 PRISM 運営委員会 委員長

国土交通省国土地理院 総合評価委員会 委員長

国土交通省国土地理院 民間等電子基準点の活用に関する検討委員会 委員長

国土交通省国土地理院 「測量の生産性を向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクト」ワーキンググループ 委員

国土交通省大臣官房技術調査課 建設技術研究開発評価委員会 委員

国土交通省総合政策局 地域づくり・建設施工等に係る企画競争有識者委員会 委員

国土交通省関東地方整備局企画部施工企画課 新技術活用評価会議 委員

国土交通省関東地方整備局関東技術事務所 第15期建設技術展示館審査委員会 委員長

QBIC～QSS連携(地図分野) 準天頂衛星利活用推進会議 座長

QBIC～QSS連携(土木・建設分野) 準天頂衛星利活用推進会議 有識者

高精度衛星測位サービス利用促進協議会 アドバイザー

■下川澄雄 教授

(公財)国際交通安全学会 日本のラウンドアバウトデータベースと事例集の整理研究会 委員

(一社)交通工学研究会 技術顧問

(一社)交通工学研究会 査読委員

(一社)交通工学研究会 基幹研究 道路の交通容量とサービスの質に関する研究グループ 委員長

(一社)交通工学研究会 基幹研究 道路の交通容量とサービスの質に関する研究グループ ガイドラインフォローアップWG 委員

(一社)交通工学研究会 基幹研究 道路の交通容量とサービスの質に関する研究グループ 交通状態量に関する検討WG 委員

(一社)交通工学研究会 ラウンドアバウト技術指針出版小委員会 委員

国土交通省中部地方整備局静岡国道事務所 静岡県災害時交通マネジメント検討会 委員

静岡県 美しいふじのくにインフラビジョン推進会議 委員
静岡県 ラウンドアバウト検討委員会 委員

静岡県 浜名湖観光圏インフラネットワークワーキング委員会 委員

静岡県・浜松市・湖西市 浜名湖地域振興・減災協議会 会長

(特非)浜名湖地域舟運都市構想研究所 理事・顧問

■轟 朝幸 教授

(公社)土木学会 土木学会論文集D3分冊編集小委員会 委員長

(公社)土木学会 技術推進機構 技術者教育プログラム審査委員会 委員

(一社)国土政策研究会 会誌編集委員会 委員

(一社)交通工学研究会 出版委員会 副委員長

(一社)交通工学研究会 新規出版企画小委員会 委員長

国土交通省 交通政策審議会航空分科会 臨時委員

国土交通省航空局 総合評価委員会 委員

国土交通省航空局 無人航空機の有人地帯における目視外飛行(レベル4)実現に向けた検討小委員会 委員

国土交通省航空局 空港受入環境高度化支援ウイズコロナ補助金有識者委員会 委員

国土交通省航空局 空港分野におけるCO₂削減に関する検討会 委員

国土交通省東京航空局 総合評価委員会 委員

国土交通省関東運輸局 地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会 委員

東京都 東京都における地域公共交通の在り方検討会 委員

葛飾区 自転車活用推進計画検討委員会 委員長

葛飾区 入札監視等委員会 委員長

青梅市 公共交通活性化協議会 委員(議長)

千葉県 県土整備公共事業評価審議会 委員長

千葉県 入札監視委員会 委員長

千葉県 建設工事総合評価 委員

千葉県 成田空港の離着陸制限(カーフェュー)の弾力的運用に関する検証小委員会 委員長

千葉市 新基本計画審議会 会長

千葉市 地域公共交通活性化協議会 委員長

鎌ヶ谷市 建設工事総合評価 委員

鎌ヶ谷市 鎌ヶ谷市企業誘致推進協議会 委員

松戸市 建設工事総合評価 委員

松戸市 松戸駅周辺まちづくり委員会 委員

船橋市 地域公共交通活性化協議会 委員

山武市 地域公共交通活性化協議会 副会長

成田市 地域公共交通網形成協議会 副会長

木更津市 地域公共交通活性化協議会 会長

大網白里町 地域公共交通活性化協議会 会長

八街市 地域公共交通協議会 副会長

旭市 地域公共交通協議会 委員

館山市・南房総市 南房総・館山公共交通合同協議会 委員

館山市 地域公共交通会議 委員(議長)

栄町 公共交通会議 委員

三郷市 地域公共交通活性化協議会 委員

八潮市 地域公共交通活性化協議会 会長

成田空港地域振興連絡協議会 成田空港地域共生・共栄会議 副会長

熊本空港株式会社 第三者モニタリング委員会 委員

いすみ鉄道株式会社 全国いすみ鉄道支店長制度 日大交通システム工学科支店長

■福田 敦 教授

(公財)国際交通安全学会 顧問

(公社)土木学会 今後の海外インフラ展開に向けた変革のあり方検討会 副幹事長

(公社)土木学会 関東支部 幹事

(一社)交通工学研究会 理事

(一社)計画交通研究会 監事

(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE) 理事

(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE) 認定・事業委員会 委員

(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE) 国際委員会 委員

(一社)日本私立大学連盟 FD推進ワークショップ運営委員会 委員

(一社)海外運輸協力協会 アドバイザー

EASTS-Japan 理事

日本システム・ダイナミクス学会 顧問

日本環境共生学会 副会長・関東支部長・理事

Asia Transportation Research Society, Honorable Advisor

(独法)国際協力機構 ベトナム都市鉄道セクターでの計測・報告・検証システムに関する情報収集調査 アドバイザー

(独法)国際協力機構 開発途上国における都市鉄道プロジェクト 課題別支援委員会 委員

国土交通省 国際建設関連業務に係る企画競争有識者委員会 委員長

国土交通省 日本アセアン道路交通安全共同調査 アドバイザー

千葉県 第11次千葉県交通安全計画 有識者

千葉市 都市計画審議会 委員

千葉市 高度地区アドバイザー

千葉市 (仮)都市計画道路 磯辺茂呂町線(園生町)みちづくり協議会 座長

八千代市 都市計画審議会 委員

■藤井敬宏 教授

(公財)日本交通管理技術協会 自転車安全整備技能検定審議会 委員

国土交通省関東運輸局 千葉県バリアフリーネットワーク会議 座長

国土交通省中部運輸局 地域交通マネージャー

品川区 庁舎機能検討委員会 副会長

港区 南青山二丁目公共施設選考委員会 委員

港区 バリアフリー基本構想推進協議会 会長
東久留米市 地域公共交通会議 会長
武蔵村山市 地域公共交通会議 会長
我孫子市 総合計画審議会 会長
我孫子市 地域公共交通協議会 委員
我孫子市 都市計画審議会 会長
市川市 公共交通協議会バス交通分科会 委員
市川市 福祉有償運送運営協議会 委員
市川市 公共交通協議会 会長
市川市 公共交通調査 専門員
市川市 総合計画審議会 会長
市川市 都市計画審議会 副会長
市原市 バリアフリー推進協議会 会長
市原市 公共交通地域協議会 アドバイザー
市原市 合計画審議会 会長
市原市 総合評価落札方式による入札評価委員
市原市 地域公共交通会議 座長
市原市 都市再生協議会 委員
市原市 福祉有償運送運営協議会 委員
浦安市 福祉有償運送運営協議会 委員
柏市 交通政策審議会 会長
柏市 地域公共交通部会 部会長
鴨川市 新たな公共交通網の具体的なビジョン検討会議 委員
君津市 バリアフリー基本構想推進協議会 会長
君津市 国土強靱化地域計画有識者会議 座長
君津市 地域公共交通アドバイザー
君津市 地域公共交通会議 委員
匝瑳市 地域公共交通会議 委員
千葉市 バリアフリー推進協議会 会長
東金市 都市計画審議会 委員
東金市 総合交通計画策定協議会 委員
流山市 地域公共交通活性化協議会 副会長
富津市 地域公共交通会議 委員
船橋市 地球温暖化協議会 会長
船橋市 地球環境審議会 委員
船橋市 地球環境審議会地球環境部会 部会長
船橋市 都市計画審議会 委員
茂原市 地域公共交通会議 委員
八千代市 総合計画審議会 委員
八千代市 都市計画マスタープラン策定検討委員会 委員
八千代市 公共交通会議 副会長
静岡県 未来創造まちづくり構想会議 委員
伊豆の国市 地域公共交通会議 委員
伊東市 伊東駅前広場整備検討委員会 会長

伊東市 地域公共交通活性化協議会 委員
下田市 地域公共交通会議 委員
裾野市 総合計画等評価委員会 会長
裾野市 地域公共交通活性化協議会 委員
裾野市 都市計画審議会 会長
富士宮市 地域公共交通会議 委員
富士宮市 都市計画審議会 会長
三島市 地域公共交通網形成協議会 委員
伊勢原市 地域公共交通会議 会長

■鈴木 圭 教授
(公社)土木学会 土木史研究会 広報委員長

■峯岸邦夫 教授
(公社)土木学会 技術功労賞選考委員会 委員長
(公社)土木学会 表彰委員会 委員
(公社)土木学会 技術者教育プログラム審査委員会 幹事
(公社)土木学会 キッズプロジェクト検討小委員会 幹事
(公社)地盤工学会 基準部 幹事
(公社)地盤工学会 関東支部 評議員
(公社)地盤工学会 関東支部 千葉県グループ幹事
(一財)日本技術者教育認定機構 基準委員会 委員
(一財)日本技術者教育認定機構 基準総合調整委員会 委員
国際ジオシンセティックス学会日本支部 支部幹事
国際ジオシンセティックス学会日本支部 表彰委員会 副委員長
国際ジオシンセティックス学会日本支部 新技術委員会 委員長
国際ジオシンセティックス学会日本支部 論文集編集委員会 委員
国際ジオシンセティックス学会日本支部 行事委員会 委員
国土交通省関東地方整備局東京国道事務所 総合評価審査分科会 委員

国土交通省関東地方整備局東京外かく環状国道事務所 総合評価審査分科会 委員
船橋市 一般競争入札総合評価型技術審査会 学識委員

■石坂哲宏 准教授
(公社)土木学会 土木計画学委員会学術小委員会 委員
(公社)土木学会 学術交流基金管理委員会 委員
(公社)土木学会 関東支部 企画部会 幹事
(一社)交通工学研究会 編集委員会 委員
(一社)交通工学研究会 事業委員会 委員
(一社)交通工学研究会 JSTE シンポジウム運営小委員会 委員
日本システム・ダイナミクス学会 理事
Eastern Asia Society for Transportation Studies,
International Scientific Committee, Committee Member

(独法)都市再生機構 工事中交通マネジメント研究ワーキング 委員
久喜市 地域公共交通会議 委員

■伊東英幸 准教授
(公社)土木学会 関東支部 企画部会 幹事
環境アセスメント学会 理事
環境アセスメント学会 企画委員会 委員

環境アセスメント学会 企画委員会アセス検定WG 委員(リーダー)
環境アセスメント学会 企画委員会小冊子WG 委員
環境アセスメント学会 学会設立20周年記念事業特別委員会記念誌制作WG 委員

環境アセスメント学会 学術委員会 委員
環境アセスメント学会 生態系研究部会 委員
環境アセスメント学会 若手研究会 委員

日本環境共生学会 表彰委員会 幹事
日本環境共生学会 学会賞選考委員会 委員
日本環境共生学会 第23回学術大会実行委員会 委員
日本システム・ダイナミクス学会 理事(事務局長)

International Journal of GEOMATE (Geotechnique,
Construction Materials and Environment), Review
Board Member

山梨県 環境影響評価等技術審議会 委員
成田市 地域公共交通網形成協議会 委員
成田市 地域公共交通網形成協議会交通事業分科会 会長
柏市 交通政策審議会 委員
柏市 地域公共交通部会 委員
横芝光町 地域公共交通会議 委員
鎌ヶ谷市 緑の基本計画検討委員会 委員
なごや生物多様性保全活動協議会 委員

■江守 央 准教授
(公社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 キッズプロジェクト検討小委員会 委員長
(一社)日本福祉のまちづくり学会 文化財・世界遺産のアクセシビリティ特別研究委員会研究委員会 委員

(一社)日本福祉のまちづくり学会 理事
(一社)日本福祉のまちづくり学会 事務局長
豊島区 バリアフリー推進協議会 副会長
新宿区 移動円滑化促進方針策定協議会 副会長
渋谷区 バリアフリー推進協議会 副会長
大田区 移動円滑化推進協議会 副会長
三鷹市 バリアフリーのまちづくり推進協議会 副会長
東久留米市 都市計画自転車駐車場整備事業 事業者審査委員会 委員

八千代市 福祉有償運送運営協議会 会長
鎌ヶ谷市 福祉有償運送運営協議会 会長

船橋市 都市再生整備計画事業事後評価委員会 副会長
■齊藤準平 准教授
(公社)土木学会 全国大会実行委員会 総務部会
(公社)土木学会 総務部会 技術功労賞選考委員会 幹事長
(公社)土木学会 関東支部 広報部会 副主査
(公社)土木学会 関東支部 運営幹事会 幹事

■兵頭 知 助教
(公社)土木学会 総務部門 全国大会委員会 第IV部門委員
(公社)土木学会 総務部門 全国大会委員会 プログラム編成会議 2020年度 第IV部門委員
(一社)交通工学研究会 自主研究 交通事故リスクマネジメントに関する研究 委員
八街市 地域公共交通協議会 委員
新潟都市圏交通事故リスクマネジメント研究会 委員

■山中光一 助教
(公社)土木学会 令和3年度全国大会実行委員会 学術部会統括班 副班長
(公社)土木学会 土木学会論文集E1分冊編集小委員会 委員
(公社)土木学会 舗装工学委員会 舗装工学論文集編集小委員会 委員
(公社)土木学会 舗装工学委員会 舗装材料小委員会 委員
(公社)土木学会 舗装工学委員会 舗装材料小委員会 路床路盤分科会 委員
(公社)土木学会 関東支部 学術研究部会 幹事
(公社)地盤工学会 TC202 Transportation Geotechnics 国内委員会 幹事
(公社)地盤工学会 地盤工学会誌編集委員会 委員
(公社)地盤工学会 関東支部 会員サービスグループリーダー幹事

(公社)地盤工学会 関東支部 支部発表会グループ 県連絡委員
(公社)地盤工学会 関東支部 千葉県グループ 幹事
(特非)舗装診断研究会 舗装診断装置検証委員会 小型FWD 検証分科会
(特非)舗装診断研究会 舗装診断装置検証委員会 委員
ジオシンセティックス学会日本支部 ジオシンセティックス技術情報誌編集委員会 委員

■吉岡慶祐 助教
(公財)国際交通安全学会 H2007プロジェクト「日本のラウンドアバウトデータベースと事例集の整備」特別研究員
(公財)国際交通安全学会 H2008プロジェクト「電動モビリティ混在下の安全快適な道路環境整備に関する研究」特別研究員
(一社)交通工学研究会 平面交差の計画・設計・制御の研究グループ 応用編分科会 委員

- (一社)交通工学研究会 研究企画小委員会 委員
- (一社)交通工学研究会 研究委員会 委員
- (一社)交通工学研究会 道路の交通容量とサービスの質に関する研究グループ 交通状態量に関する検討WG WGメンバー
- (一社)交通工学研究会 道路の交通容量とサービスの質に関する研究グループ ガイドライン・フォローアップWG WGメンバー
- (一社)交通工学研究会 編集委員会 委員
- (一社)交通工学研究会 ラウンドアバウト技術指針出版小委員会 委員兼幹事
- (一社)交通工学研究会 資格委員会 委員
- (一社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計 計算ソフト検討作業部会 委員

船橋市 交通安全対策部会 道路安全診断委員

■**青山恵里** 助手

(一社)交通工学研究会 研究委員会 基幹研究 道路の交通容量とサービスの質に関する研究グループ 交通状態量に関する検討WG WGメンバー

■**菊池浩紀** 助手

(公財)国際交通安全学会 インドの小規模都市における地域に根ざした道路デザインの社会実装 特別研究員

日本システム・ダイナミクス学会 幹事

日本環境共生学会 第23回学術大会 実行委員

■**田部井優也** 助手

(公社)土木学会 エネルギー委員会スマートシェアシティ研究小委員会 委員兼幹事

学外学術活動 2020. 4. 1～2021. 3. 31

■**小早川 悟** 教授

講師：平成30年度道路マネジメント研修「物流と道路マネジメント」／国土交通省／国土交通大学校（オンライン開催） 2020.10.22

講師：道路整備施策研修／(一社)全国建設研究センター／全国建設研究センター 2020.11.26

講師：第2回JSTEシンポジウム「生活道路対策における道路安全診断とETC2.0プローブデータの試行適用」／(一社)交通工学研究会／オンライン開催 2020.12.4

講師：JICA 集団研修／総合都市交通計画プロジェクト「Parking Management」／(独法)国際協力機構／JICA 東京（オンライン開催） 2021.3.4

■**佐田達典** 教授

特別講演：第49回国土地理院報告会「高精度測位社会を支える測位環境の実現—準天頂衛星システム「みちびき」の役割と効果—」／国土地理院／オンライン開催 2021.1.10

■**下川澄雄** 教授

オーガナイザ：第2回JSTEシンポジウム「『つかう時代』において道路の計画設計が目指すべきもの」／(一社)交通工学研究会／オンライン開催 2020.12.3

司会：土木学会関東支部第48回技術研究発表会「交通計画2」／(公社)土木学会／オンライン開催 2021.3.3

■**轟 朝幸** 教授

講師：日建連海洋開発委員会空港部会講演会「空港の未来—未来の実現は夢を語り合うことから—」／日本建設業連合会／東京都中央区 2020.12.9

■**福田 敦** 教授

司会・パネリスト：令和2年度全国大会第75回年次学術講演会／研究討論会⑤「今後の海外インフラ展開に向け

た変革のあり方検討会」／(公社)土木学会／オンライン開催 2020.9.7

パネリスト：第23回(2020年度)学術大会特別セッション／パネルディスカッション(1)交通・コミュニケーション・街づくり、SDGs とのつながり／環境共生学会／オンライン開催 2020.9.25

Invited Presenter：3rd INTERNATIONAL CONFERENCE ON SUSTAINABLE INFRASTRUCTURE entitled on “Infrastructure Development and Engineering Education in Japan”／Department of Civil Engineering and Planning, Yogyakarta State University, Indonesia／Yogyakarta (On line) 2020.10.5

Panelist：Panel Discussion 1 “TOD for Smart City” at Indonesia-Japan Smart City Virtual Forum 2020 entitled on “TOD Concept and some experiences in Japan+ α ”／Japan Association for Smart Cities in ASEAN (JASCA)／Jakarta (On line) 2020.11.25

講演：第2回JSTEシンポジウム「受託研究・共同研究が作る交通工学研究会の“研究力”」／(一社)交通工学研究会／オンライン開催 2020.12.3

Invited Presenter：Session 1: Digital Transformation in Transportation & Logistics Post COVID-19 Era, 13th ATRANS Annual Conference entitled on “Digital Transformation in Transportation & Logistics Post COVID-19 Era in Japan”／ATrans／Bangkok (On line) 2020.12.4

モデレータ：令和2年度オンラインFD推進ワークショップ／(一社)私立大学連盟／オンライン開催 2020.12.13

講演：2019研究調査報告会「1940C インド小規模群における地域に根ざした計画・デザインの提言と社会実装の取り組み～持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を視野に～」／(公財)国際交通安全学会／オンライン開催 2020.12.14

講師：フィリピン国DPWH 交通需要予測及び経済分析に係る遠隔研修／(独法)国際協力機構／マニラ（オンライン開催） 2021.2.8

講師：令和元年度JICA課題別研修「総合都市交通計画」コース／発展途上国における交通安全対策(タイの都市における事例)／(独法)国際協力機構／オンライン開催 2021.3.3

座長：第48回土木学会関東支部技術研究発表会／土木学会関東支部／オンライン開催 2021.3.1

モデレータ：The 2nd Experts Group Meeting on ASEAN-Japan Road Traffic Safety Joint Study／国土交通省／オンライン開催 2021.3.9-10

■**藤井敬宏** 教授

講演：都市計画とは、コンパクト化とは／裾野市都市計画審議会／裾野市 2020.8.26

講演：シニアの外出を支援する交通手段の確保に向けて／いちほら市民大学環境コース／サンプラザ市原 2020.10.6

講師：未来カフェ—人口減少時代のまちづくりと交通／君津市企画課／君津市(Web会議併用) 2021.1.20

■**峯岸邦夫** 教授

座長：土木学会年次学術講演会／(公社)土木学会／オンライン開催 2020.9.11

座長：第35回ジオシンセティックスシンポジウム／国際ジオシンセティックス学会日本支部／オンライン開催 2020.12.11

■**石坂哲宏** 准教授

座長：第48回関東支部技術研究発表会／土木学会関東支部／オンライン開催 2021.3.3

外部研究資金の受入状況 2020. 4. 1～2021. 3. 31

助成金名・委託元など(研究期間)	研究課題	教員名
清水建設株式会社(2020.9.1～2021.3.31)	オフィスビル物流における技術課題の抽出・改善方策の検討	小早川 悟(代表)
三井住建道路株式会社(2020.5.1～2021.3.31)	情報化施工に関する研究	佐田達典(代表)
朝日航洋株式会社(2020.10.1～2021.3.31)	MMSの精度検証	佐田達典(代表)
太平洋プレコン工業株式会社(2020.6.10～2021.3.31)	非公開2件	峯岸邦夫(代表)、山中光一
公益財団法人国際交通安全学会(2020.6.11～2021.3.31)	小型パーソナルモビリティの通行空間の検討に向けた走行実験	吉岡慶祐(代表)
浜名湖水際都市創造研究会(2020.11.19～2021.3.31)	浜名湖地域における水辺のまちづくりに関する研究	下川澄雄(代表)

講演：第2回JSTEシンポジウム「受託研究・共同研究が作る交通工学研究会の“研究力”」／(一社)交通工学研究会／オンライン開催 2020.12.3

司会：JSDカンファレンス2020／日本システム・ダイナミクス学会／オンライン開催 2020.12.4

■**江守 央** 准教授

講師：ユニバーサルデザインの視点から交通安全問題を考える／(一社)東京都交通安全協会／足立区西新井文化ホール 2020.10.7

講師：ユニバーサルデザインの視点から交通安全問題を考える／(一社)東京都交通安全協会／北とびあカナリアホール 2020.10.14

講師：ユニバーサルデザインの視点から交通安全問題を考える／(一社)東京都交通安全協会／なかのZERO 2021.2.2

■**山中光一** 助教

座長：第75回土木学会全国大会／リサイクル・廃棄物／(公社)土木学会／オンライン開催 2020.9.9

座長：第17回地盤工学会関東支部研究発表会／構造1(掘削・相互作用他)／(公社)地盤工学会関東支部／オンライン開催 2020.11.27

■**吉岡慶祐** 助教

座長：第62回土木計画学研究発表会・秋大会／企画セッション「ラウンドアバウト：新たなステージに向けて」／(公社)土木学会／オンライン開催 2020.11.14

登壇者：第2回JSTEシンポジウム「日本のラウンドアバウト最前線～導入事例の経緯と特徴～」／(一社)交通工学研究会／オンライン開催 2020.12.4

国立研究開発法人科学技術振興機構（2020.4.1～2021.3.31）
マルチモーダル地域交通状況のセンシング、ネットワークとビッグデータ解析に基づくエネルギー低炭素社会実現を
目指した新興国におけるスマートシティの構築 …………… 福田 敦（代表）、石坂哲宏

文部科学省科学研究費（基盤研究（C））（2019.4.1～2023.3.31）
我が国の道路事業における動物の事故対策とその効果の推計 …………… 伊東英幸（代表）

文部科学省科学研究費（基盤研究（C））（2017.4.1～2021.3.31）
ひび割れとプレストレスの複合的影響を考慮したPRC部材の塩分浸透特性評価法の構築 …………… 齊藤準平（代表）

文部科学省科学研究費（若手研究）獲得支援研究助成金（2020.7.16～2021.3.31）
生活道路におけるマクロ交通特性を考慮したブロックエリア事故リスク評価法の開発 …………… 兵頭 知（代表）

文部科学省科学研究費（若手研究）（2020.4.1～2022.3.31）
路床・路盤材の性能評価試験の精度と各関係性に関する基礎的研究 …………… 山中光一（代表）

文部科学省科学研究費（若手研究）（2019.6.1～2021.3.31）
ラウンドアバウト幾何構造の安全性能評価ツールの開発 …………… 吉岡慶祐（代表）

文部科学省科学研究費（研究活動スタート支援）（2020.9.1～2022.3.31）
信号交差点における飽和交通流率の基本値に関する研究 …………… 青山恵里（代表）

令和2年度 学生の受賞等 2020.4.1～2021.3.31

主催者／賞などの内容（受賞年月）	受賞者氏名（研究室）
日本地域政策学会／2020年度学術賞奨励賞／ 住民協働型公共交通の整備に向けた住民力の活用策—君津市小糸・清和地区におけるスクールバスの活用について—（2020.7） …………… 飯村一樹（交通環境研究室）	
日本環境共生学会／第22回（2019年度）学術大会優秀発表賞／ 開発途上国における都市洪水発生時の道路ネットワーク寸断に対する政策実施効果の推計（2020.9） …………… 積田典泰（交通システム研究室）	
日本環境共生学会／第22回（2019年度）学術大会優秀発表賞／ エゾシカと車両の事故多発路線を対象とした事故発生要因の比較分析（2020.9） …………… 鈴木絢人（交通環境研究室）	
日本環境共生学会／論文賞（「環境共生」第36巻1号）／ エゾシカと車両の事故多発路線を対象とした事故発生要因の比較分析（2020.9） …………… 鈴木絢人（伊東英幸、藤井敬宏）（交通環境研究室）	
（公社）土木学会／令和2年度土木学会全国大会第75回年次学術講演会優秀論文賞／ 都市部移動体におけるGPS/QZSSとGalileoの併用効果に関する研究（2020.10） …………… 宇野敬太（空間情報研究室）	
（公社）土木学会／令和2年度土木学会全国大会第75回年次学術講演会優秀論文賞／ 非幹線道路ブロックエリアにおける事故リスク推計モデルの構築（2020.10） …………… 岡田航平（運輸交通計画研究室）	
日本大学理工学部／令和2年度第64回理工学部学術講演会優秀発表賞／ 準天頂衛星システムと他の衛星測位システムとの併用効果に関する研究（2020.12） …………… 照井理仁（空間情報研究室）	
日本大学理工学部／令和2年度第64回理工学部学術講演会優秀発表賞／ 街路車両走行時での高精度衛星測位における受信信号強度の差を用いた利便性向上に関する研究（2020.12） …………… 宮澤 暁（空間情報研究室）	
日本大学理工学部／令和2年度第64回理工学部学術講演会優秀発表賞／ 位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSによる壁面の層厚計測に関する基礎的研究（2020.12） …………… 大木亜美（空間情報研究室）	
日本大学理工学部／令和2年度第64回理工学部学術講演会優秀発表賞／ 都市部における立体交差点が成立可能となる交通条件の分析（2020.12） …………… 真岩優多（道路マネジメント研究室）	
日本大学理工学部奨学金／浅川美利奨学金（2020.）／ …………… 鈴木絢人（交通環境研究室）	

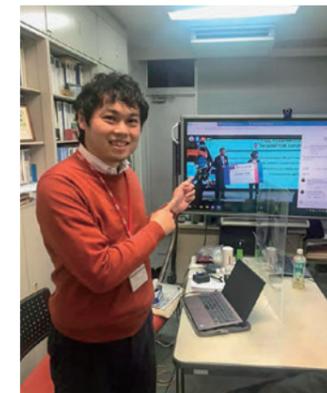
教室の動き

教室関連の動きを報告します。

■ 受賞報告

The Best Paper Award of 13th ATRANS Annual Conference
を受賞

菊池浩紀（助手）、牛嶋祥寛（4年）、福田敦（教授）
の共著の論文が、12月4日（金）にバンコクおよびオン
ラインで開催された13th ATRANS Annual Conference に
てThe Best Paper Awardを受賞しました。論文タイトル
は「Analysis of Impact of COVID-19 Measures on Travel
Behavior: Perspective from International Comparison（交通
行動に対するCOVID-19対策の影響分析：国際比較の観点
から）」です。この研究は、外出の制限の程度が異なる複



オンラインでの受賞発表の様子

数の国を対象として、
各国の対策がコロナ禍
の交通行動の変化に与
えた影響を分析したも
のです。その結果、対
策の強弱によって交通
行動に大きく影響を与
え、夜間外出禁止令や
ロックダウンの対策を
実施した方が交通行動
の減少につながるこ
を明らかにしました。

■ 交通まちづくり工房活動報告

石坂哲宏

実フィールドでの経験の積み重ねができない1年でしたが、参加している学生はできる範囲の活動を見だし、取り組んでくれました。例えば、これまで調査してきたデータの解析、そのデータ解析を基にしたプレゼンテーションの作成（将来の住民への説明を意識して）、協力してくれる方とのオンラインでのミーティングなどです。全体の活動としては、「工房サミット」を企画し、『未来へのアクション』と題して、各グループや個人の未来のアクションを提言しました。また、立命館大学上久保ゼミとオンラインディベート大会を開催し、「リニア中央新幹線整備の継続の是非」「日本における街路の無電中化の是非」に関して

討議を行いました。

■ 日本大学「学生FDCHAmitt」への参加報告

鷲巢祥紀（3年）

11月29日（日）に日本大学FD委員会主催の「FDCHAmitt」
が開催されました。今年は、新型コロナウイルスの影響で、
Zoomを用いたオンライン形式となりました。「ミライの
大學生へ～オンライン授業のミライのカタチ～」というテ
ーマで開催となりました。全3セッションに分かれ、オン
ライン授業の長所・短所を挙げたのち、改善・改良案を出
し合いました。最終セッションでは、学部ごとに会議中に
出した内容を学部提案書にまとめるという内容でした。全て
のセッションにおいて、オンラインではなく、キャンパス
での対面授業を望んでいるということを発言しました。本
会議を通し、他学部との交流・対面授業のありがたみを感じ
る貴重な機会となりました。

■ 令和2年度卒業研究発表会

江守 央（4年生担任）

令和2年度の卒業研究発表会が2021年1月30日（土）
にオンライン会議システムZoomを利用して開催されま
した。本年度は、111件（発表者114名）の発表があり、
Zoom会場には大学院生のほかに3年生、保護者など多く
の参加者に会場いただきました。発表は1テーマあたり発
表8分、質疑応答4分の合計12分で各自の研究内容につい
て発表をしました。本年度は全件Zoomでの発表であるこ





Zoomでの発表会の様子

とから、事前に提出した8分の発表動画を放映し、その後4分間の質疑をリアルタイムで応答する形式で実施しました。学科の卒業研究発表会としては、このようなオンライン発表会として実施する初めての試みとなりましたが、大きなトラブルもなく進行しました。さらに、発表動画をあらかじめ準備したことで、1年間を通して着実にやってきた研究内容を十分に伝えられていたように感じました。このように、初の試みに対してスムーズに実施できたことは、運営に携わった先生や発表者・聴講者の皆さまにご協力いただきましたことが大きく、この場をお借りして感謝申し上げます。一方、Zoom会議システムの入室上限数の関係で今回の発表会に1、2年生は参加できませんでしたが、今後この対応については検討すべきと考えられます。

令和2年度修士論文審査会

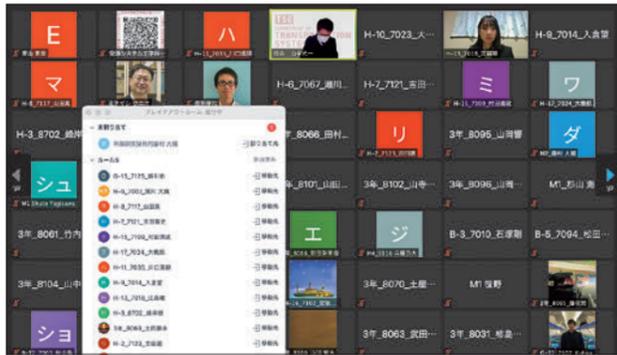
藤井敬宏（大学院担任）

大学院博士前期課程の修士論文審査会が2021年2月24日（水）9時30分より船橋校舎1325教室にてWEB併用型の審査会として開催されました。

発表は10分間にコンパクトにまとめられ、質疑応答も10分と限られてはいましたが、要点をまとめた回答は、大学院2年間の成長を感じる学術的にもレベルの高い審査会で



修士論文審査会の様子



した。発表者17名全員が審査に合格、3月25日（木）に修士（工学）の学位記が授与されました。修士論文の一覧は本号9ページをご覧ください。

本年度は、繰り返されるCOVID-19の拡散の波に翻弄され、キャンパスへの入構制限：研究室のコンピューター・ソフトをリモート活用したり、入構許可後も滞在時間が制限：継続型の実験ができず、実験条件やモデルサイズを変更したり、移動や外出自体が制限：観光や公共交通等の外出支援を検討する調査方法を抜本的に変更したり、とにかく多くの変更と工夫が最後まで求められる中での研究活動でした。

このような環境下での研究活動、物事に対する論理的な考え方や、多角的な視点で工夫する柔軟な発想力等、大学院生として学ぶ力が強化され、一人ひとりを大きく成長させてくれた年になったとも思っています。

研究指導教員として、学生たちに、もっと自由にそして活発に活動できる研究の場を提供できませんでしたが、“特別な年”に“特別な環境”で“特別な学ぶ力を身につけた”、そんな交通システム工学専攻修士17名の今後の大なる活躍を心より願うばかりです。

事務室からのお知らせ

熊田悦子・高梨美紀子（事務室）

春風の心地よい季節となりました。新入生は新生活への期待と緊張で複雑な心境でしょうか。また、在学生は新学年に向けて意欲を燃やしていることと思います。

事務室では皆さんの学生生活のサポートを行っており、就職・進学・その他の資料も閲覧できるようになっております。また、公務員志望の方のために、参考書や問題集の貸し出しもしています。ぜひ活用してください。

事務室案内

事務取扱時間	月曜日～金曜日	9:30～13:00、14:00～16:00
場所	7号館2階7214室	

令和2年度 就職状況

4年生担任 佐田達典、福田 敦、江守 央

令和2年度の学部卒業予定者は114名、大学院の博士前期課程修了予定者は17名、合計131名に対し、就職を希望しない学生を除くと、ほぼ100%の学生の進路が決定しました。

本年度の就職活動は、昨年度と同様に3月1日より開始となりました。コロナ禍で例年とは異なる就職活動や採用試験でしたが、昨年度と同様に前半に内々定が多く出ていました。オンラインによる選考面接や会社説明会が開催され、新たにオンラインでの採用試験に対応した準備が必要

となりました。また、公務員試験の大幅な延期により、11月以降の後半期に内定がずれ込む状況でした。

そのため就職先の業種別では、公務員を志望する学生が学部生で12%と、昨年度の17%より減少しました。民間企業を希望する学生は多く、建設業（建設コンサルタントを除く）と運輸業は例年どおり50%を超える大きな割合を占めています。しかし、建設コンサルタント（複合サービス業）は18%と例年に比べ10ポイント程度増加した状況となっています。

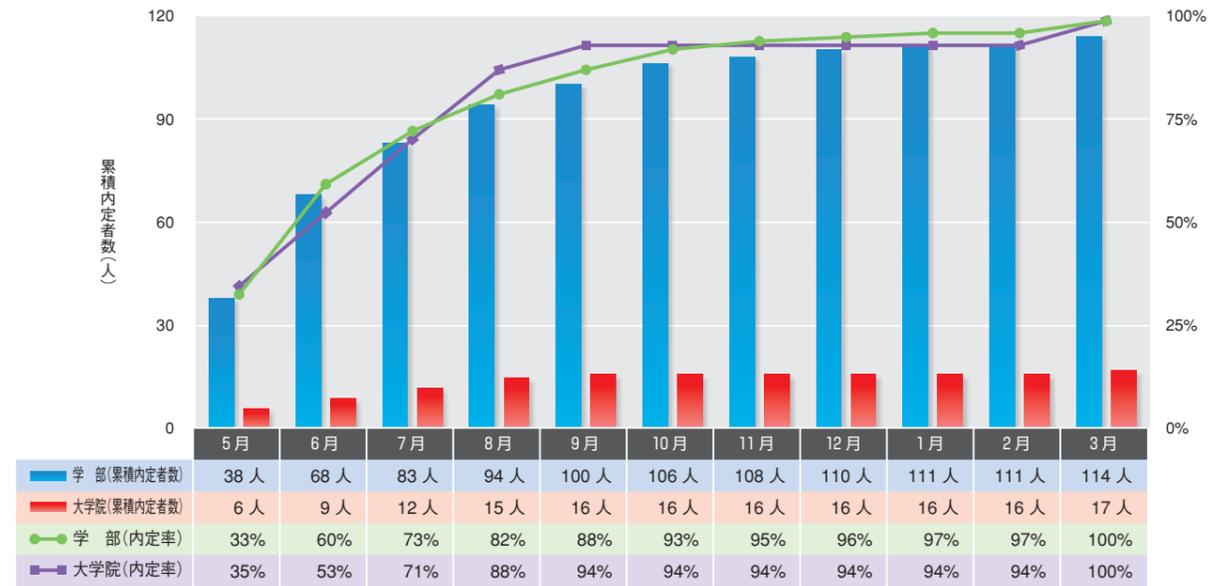


図-1 学部・大学院の内定者の推移

就職先業種別内定人数

内定先業種	大学院(人)	学部(人)
建設業	6	36
運輸業	6	26
国家公務員	0	2
地方公務員	1	11
大学院・進学・研究生	1	14
情報サービス	1	2
複合サービス	2	21
一般機械製造	0	1
学校教育	0	0
通信業	0	0
その他	0	1
希望しない	0	0
合計	17	114

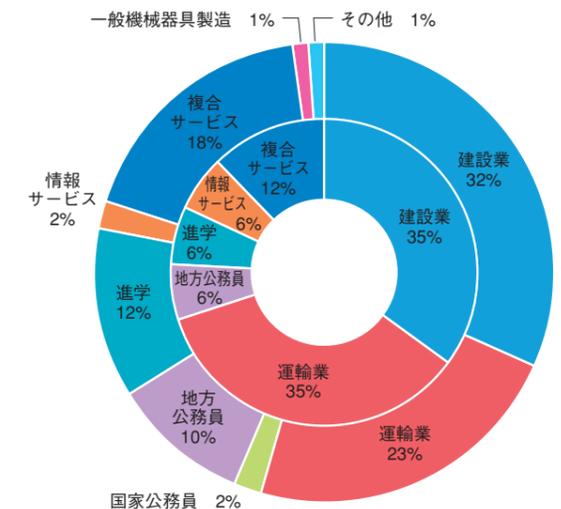


図-2 就職先業種別割合（内：大学院、外：学部）



トヨタの実験都市 「ウーブン・シティ」が 動き始める

藤井敬宏
教授

ウーブン・シティの工事着手

ウーブン・シティは、令和2年度、1年生の新カリキュラムの全学部共通講義としてスタートした「日本を考える」の中で、学科との関連が深い先端技術を学ぶ回に『日本の科学技術の未来』として紹介したプロジェクトです。

2021年2月23日、富士山の麓、静岡県裾野市にあるトヨタ自動車東日本株式会社東富士工場跡地の東京ドーム約15個分の約70.8万㎡に、「ウーブン・シティ (Woven City)」と呼ばれる実験都市を開発するプロジェクト「コネクティッド・シティ」の鉄入れ式を迎えました。

2020年1月7日に発表され、1週間でおよ



「Woven City」地鎮祭

そ3,000社を超える世界のトップ企業からの参加申し出を受けられるほどのビッグプロジェクトが、企画発表からたった1年で工事着手となりました。

工事着手に連動した裾野市の諸計画の動き

裾野市の総合計画審議会・都市計画審議会・地域公共交通活性化協議会の委員として、この1年間、このプロジェクトをどのように自治体として位置付けて、取り組んで行くのか、そのサポートに関わらせていただきました。

総合計画審議会では、第5次裾野市総合計画(2021年~2030年)の中で、ウーブン・シティ周辺の地域に人や機能を誘導・集約する拠点形成(新市街地構想含む)を図り、ウーブン・シティと連携したコンパクトなまちを新たな交通モードでネットワーク化する仕組みを形成することを明確に位置付けました。詳細なプロジェクトの内容が開示されていない中、一民間企業のプロジェクトを自治体の最上位計画の柱に組み込むことに異議を唱える声もありましたが、戦後日本の経済を牽引したトヨタが、次の未来を目指して臨むコネクティッド・シティ、人口推計も上方修正が必須、ウーブン・シティをインキュベーターとした新たな都市の再生など、スクラップ&ビルドの考え方から、ビルド&スクラップに時間軸の進め方を変えてでも動かす時期だという相互理解を深めることで、共通理念の組み込みができたと思います。



「Woven City」イメージ

都市計画審議会では、用途地域が工業地域に指定されていた東富士工場の跡地を準工業用地に用途変更する審議からスタートしました。このプロジェクトでは「ロボット・AI・自動運転・MaaS・パーソナルモビリティ・スマートホームといった先端技術の人々のリアルな生活環境の中に導入・検証できる実験都市の創造」を目指しており、初期段階では、従業員や関係者の約2,000名の入居、将来的には一般入居や観光施設の利用を目指すものであったからです。工事着手に向けて、COVID-19の感染が拡大する中、リモート参加の審議を交え、工事着手に間に合ったという安ど感を覚えた1年でした。

連動した動きへ

ウーブン・シティ内は、自動運転。

裾野市は、ウーブン・シティと市内の拠点(新市街地構想含む)間を新たな交通モードで連動させたいという思いから、今後の大学との共同研究を期待しています。

皆さんの学び場として展開できれば面白くなりそうですね。

編集後記

本号の1つ前の54号で、ケーブルの腐食に伴って起きた2橋の落橋事件について紹介しましたが、上部工ケーブルが1本切れた場合、その他のケーブルが健全であることが前提となっていることを説明しました。そのためには、上部工に使われるケーブルの耐力は、0.45Pu以下でなくてはなりません。つまり、ケーブル1本を取り換えるために、1本のケーブルを除いた場合に、他のケーブルに作用するケーブル張力は、最大0.9Puであることを保障するものであります。

つまり、上部工ケーブル張力は、1本を取り換える場合を想定して決められています。そうすれば、仮にケーブルが1本切れても、または、ケーブル1本を取り換える場合に、既存のケーブルがその分を支えることによって、橋桁が落橋することはないと考えます。これがケーブル張力を決める考え方となっています。(鈴木)

ちょうど昨今の頃、COVID-19(以下、コロナ)感染拡大に関するニュースが増え始め、瞬く間に日常が変化することを思い返しております。本年度のプリテン55号(年報号)の卒業論文・修士論文研究や皆さまの研究活動を見ても、コロナ関連を扱った研究課題が多く、改めて皆さまの関心が高い問題であると認識しました。私が所属する研究室でも、コロナによる自動車交通への影響の実態を研究し、その一端を明らかにしました。具体的には、感染可能性を考え、コロナ前後で公共交通から自動車や自転車・徒歩などの交通モードへシフトしている方が一定数いることが分かりました。このように、コロナウイルス感染拡大により交通実態も変化しており、一研究者として、「ポストパンデミック時代」に向けた新たな交通の在り方を研究する必要を日々感じております。

(兵頭)